

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の学科設置								
フリガナ設置者	ガッコウホクシン トミヅガクエン 学校法人 富澤学園								
フリガナ大学の名称	トホクブンキョウガク 東北文教大学 (Tohoku Bunkyo University)								
大学本部の位置	山形県山形市大字片谷地 5 1 5 番地								
大学の目的	東北文教大学は、教育基本法および学校教育法に基づき、学術の中心として、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成するとともに、「敬・愛・信」の建学の精神に則り、人間性豊かな、真に社会に貢献しうる実践的な人間の育成を目的とする。								
新設学部等の目的	人間科学部は、「敬・愛・信」の建学の精神のもと、人間や人間の営みについて多角的な視点から研究し、自ら問題点を見出し、解決策を探究し、柔軟に対応できる人材の育成を目的とした教育を行う。そして、豊かな人間性と確かな専門性を身につけ、地域社会の発展に貢献できる人材を養成する。 人間関係学科は、深い人間理解に基づいた知恵と幅広い教養、確かな専門的知識・技術をもって、国際化・少子高齢化・情報化が進み、多様化・複雑化する現代社会の中で、他者を理解し、思いやり、豊かな人間関係を構築し、地域の課題解決に貢献できる人材の育成を目的とする。人間関係やコミュニケーションについて多角的に学び、家庭、地域社会、職場で豊かな人間関係を構築することのできる資質能力を身につけた人材を育成するとともに、人間や人間の営みについて特定分野による専門的な学びを深めつつ、広く総合的視点から地域の課題解決に貢献できる人材の育成を目指している。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	人間科学部 人間関係学科 (Department of Human Relations) 計	4年	60人	3年次 5人	250人	学士(人間関係学) 【Bachelor of Human Relations】	令和3年4月 第1年次 令和5年4月 第3年次	山形県山形市大字片谷地515番地	
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	東北文教大学 子ども教育学科(定員減)(△20) 東北文教大学短期大学部 総合文化学科(廃止)(△60) ※令和3年4月学生募集停止 令和3年4月名称変更予定 人間福祉学科→現代福祉学科								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
	人間関係学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	人間科学部 人間関係学科	教授 人	准教授 人	講師 人	助教 人	計 人	助手 人	兼任 人
		計	10 (9)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	18 (17)	()	51 (51)
	既設分	人間科学部 子ども教育学科	7 (7)	6 (6)	10 (10)	0 (0)	23 (23)	()	44 (44)
		計	7 (7)	6 (6)	10 (10)	0 (0)	23 (23)	()	44 (44)
	合計		17 (16)	11 (11)	13 (13)	0 (0)	41 (40)	0 ()	95 (93)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		25 (25)		9 (9)		34 (34)		
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員		1 (1)		1 (0)		2 (2)		
	その他の職員		0 (0)		1 (1)		1 (1)		
計		26 (26)		11 (11)		37 (37)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	東北文教大学短期 大学部と共用			
	校 舎 敷 地	4,958㎡	24,910㎡	2,238㎡	32,106㎡				
	運 動 場 用 地	0㎡	5,084㎡	0㎡	5,084㎡				
	小 計	4,958㎡	29,994㎡	2,238㎡	37,190㎡				
	そ の 他	0㎡	4,090㎡	0㎡	4,090㎡				
	合 計	4,958㎡	34,084㎡	2,238㎡	41,280㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	東北文教大学短期 大学部と共用			
		2,496㎡ (㎡)	9,490㎡ (㎡)	2,077㎡ (㎡)	14,063㎡ (㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設 3室 (補助職員 3人)	語学学習施設 0 (補助職員 人)	大学全体 一部短期大学部 と共用			
	11室	7室	4室						
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数	16室			
		人間関係学科							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体 短期大学部との 共用部分を含む 図書 90,752冊 学術雑誌 58種 視聴覚資料 1069点 機械・器具 122 点 電子ジャーナルの 項目は データベースの数 を計上し、学部単 位での特定不能な ため、大学全体の 数である。外国雑 誌データベースで あるアカデミック サーチエリートは 2300誌がフルテキ ストで講読でき る。	
	人間関係学科	34,914 [3,209] (34,914 [3,209])	(19 [4]) (19 [4])	(7 [2]) (7 [2])	200 (200)	539 (539)	0 (0)		
	計	34,914 [3,209] (34,914 [3,209])	(19 [4]) (19 [4])	(7 [2]) (7 [2])	200 (200)	539 (539)	0 (0)		
図書館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体	
		1700㎡	175		120,000				
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					-	
		1490㎡	フットサルコート 1面						
経 費 積 累 方 法 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	—千円	—千円
		共同研究費等		200千円	200千円	200千円	200千円	—千円	—千円
		図書購入費	5,990千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円
		設備購入費	3,003千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,262千円	982千円	982千円	982千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等						
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	東北文教大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	人間科学部 子ども教育学科	4 年	90 人	3年次 5 人	370 人	学士 (教育学)	1.1 倍	平成22 年度	山形県山形市大字 片谷地515番地
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	東北文教大学短期大学部							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	総合文化学科	2 年	60 人	— 人	120 人	短期大学士 (総合文化学)	0.95 倍	平成17 年度	山形県山形市大字 片谷地515番地
	子ども学科	2 年	100 人	— 人	200 人	短期大学士 (子ども学)	1.02 倍	平成17 年度	山形県山形市大字 片谷地515番地
	人間福祉学科	2 年	60 人	— 人	120 人	短期大学士 (人間福祉学)	0.55 倍	平成13 年度	山形県山形市大字 片谷地515番地
附属施設の概要		東北文教大学付属幼稚園 (山形市片谷地515、収容定員210名、現員205名)							

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人間科学部人間関係学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	ゼ入ミ門	基礎ゼミⅠ	1前	1				○		1	1	2			
		基礎ゼミⅡ	1後	1				○		1	1	2			
基礎教養		文章表現の技術	1・2後		2			○							兼1
		くらしと倫理学	1・2後		2			○							兼1
		くらしと文学	1・2後		2			○							兼1
		くらしと憲法	1・2前		2			○							兼1
		くらしと経済	1・2前		2			○							兼1
		くらしと哲学	1・2前		2			○		1					
		日本語のしくみ	1・2前		2			○				1			
		ことばとコミュニケーション	1・2後		2			○		1					
		民俗と歴史	1・2後		2			○		1					
		社会学と社会システム	1前		2			○							兼1
		環境と生物を考える	1・2前		2			○							兼6 集中共同
		生物学の探究	1・2前		2			○							兼1
	人間と宇宙を考える	1・2前		2			○		1						
外国語		英語Ⅰ	1前	1				○		1					兼1
		英語Ⅱ	1後	1				○		1					兼1
		英語コミュニケーションⅠ	1・2前		1			○							兼2
		英語コミュニケーションⅡ	1・2後		1			○							兼2
		韓国語Ⅰ	1・2前		1			○							兼1
		韓国語Ⅱ	1・2後		1			○							兼1
		中国語Ⅰ	1・2前		1			○				1			
		中国語Ⅱ	1・2後		1			○				1			
		フランス語Ⅰ	1・2前		1			○		1					
	フランス語Ⅱ	1・2後		1			○		1						
体育健		スポーツサイエンスⅠ	1前		1			○							兼1
		スポーツサイエンスⅡ	1後		1			○							兼1
情報処理		コンピュータ基礎演習	1前	1				○		1					
		情報倫理	1前	2				○			1				メディア
		情報検索	1後		1			○			1				
		情報処理演習Ⅰ	1後		1			○		1					
		情報処理演習Ⅱ	2前		1			○			1				
		情報処理演習Ⅲ	2後		1			○		1					
		ネットワーク応用演習	2後		1			○							兼1
	情報機器演習	2前		1			○			1					
図書館		生涯学習概論	2後		2			○							兼1
		図書館概論	1・2前		2			○							兼1
		図書館制度・経営論	2後		2			○			1				兼1
		図書館情報技術論	1・2前		2			○							
地域事情		山形の歴史・文化	1・2後		2			○		1					
		山形の政治と行政	1・2後		2			○							兼1
		山形の産業と経済	1・2前		2			○							兼1
		山形のことばとくらし	1・2後		2			○				1			兼1 共同
		山形の信仰と伝承	1・2前		2			○							兼1
海外事情		アメリカ事情	1・2前		2			○							兼1
		ヨーロッパ事情	1・2後		2			○		1					
		中国事情	1・2後		2			○				1			
		韓国事情	1・2前		2			○							兼1
海外研修		海外語学研修A（英語）	1・2・3・4前後		2			○		1					
		海外語学研修B（韓国語）	1・2・3・4前		2			○			1				
		海外語学研修C（中国語）	1・2・3・4前		2			○				1			

基礎 教育 科目	社会 体 験	ボランティア論	1前		2		○								兼1	
		ボランティア活動実践	1後・2・3・4		1				○		1					
		企業研究	1・2前		2		○									兼1
		インターンシップ	1・2後		1				○							兼2 共同
		小計 (55科目)	—	7	80		—			4	3	2				兼25
専 門 教 育 科 目	中 心 科 目	人間関係論	1後	2			○			3	1				オムニバス	
		人間関係演習 I	2前	1			○		3	3					共同	
		人間関係演習 II	2後	1			○		3	3					共同	
		人間関係プロジェクトA (コミュニケーションと心理)	3前		1		○		3						共同	
		人間関係プロジェクトB (福祉とコミュニケーション)	3前		1		○		1	1					共同	
		人間関係プロジェクトC (心理と福祉)	3前		1		○		1	2					共同	
		小計 (6科目)	—	4	3		—		7	3						
専 門 基 盤 科 目	人 間 の 理 解	心理学概論A	1前		2		○								兼1	
		心理学概論B	1後		2		○		1							
		教育心理学	3前		2		○		1							
		障害者・障害児心理学	3後		2		○								兼1 集中	
		家族心理学	4前		2		○			1						
		福祉心理学	3前		2		○								兼1 集中	
		心理調査概論	2後		2		○		1							
		現代社会心理	1後		2		○		1							
		多文化理解	2・3前		2		○		1							
		社会福祉調査の基礎	2・3前		2		○								兼1	
		障がい者福祉論	1・2後		2		○			1						
		児童福祉論	1・2後		2		○								兼1	
		高齢者福祉論	2・3前		2		○					1				
		医学概論	2・3後		2		○								兼1	
	関 係 の 調 整 ・ 構 築	関係構築の心理	1後		1			○		1	1				兼1	
		産業・組織心理学	3前		2		○								兼1 集中	
		社会・集団心理学	2後		2		○		1							
		メディアと人間関係	2・3前		2		○			1					メディア	
		文字表現論	1・2後		2		○				1					
		対話表現論	1・2後		2		○			1						
	協 働 力	地域と多文化	2・3前		2		○								兼1	
		地域共生論	2・3前		2		○		1							
		異文化間コラボレーション	2・3後		2		○		1						兼1 共同	
		保健医療と福祉	2・3後		2		○		1							
		社会福祉概論 I	1・2前		2		○		1	1					共同	
		地域福祉論 I	1・2前		2		○			1						
小計 (26科目)	—		51		—		8	5	2					兼10		

専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域	くらしと地域	2・3後	2	○	1								
			地域政策論	2・3前	2	○							兼1		
			談話コミュニケーション論Ⅰ	2前	2	○		1							
			談話コミュニケーション論Ⅱ	2後	2	○		1							
			日本語学Ⅰ	2前	2	○				1					
			日本語学Ⅱ	2後	2	○				1					
			異文化論Ⅰ	2前	2	○	1								
			異文化論Ⅱ	2後	2	○	1								
			対照言語コミュニケーション論Ⅰ	2前	2	○	1								
			対照言語コミュニケーション論Ⅱ	2後	2	○	1								
			談話言語演習	2・3前	1	○		1							
			談話コミュニケーション演習	2・3後	1	○		1					メディア		
			地域言語演習	2・3前	1	○				1					
			地域言語コミュニケーション演習	2・3後	1	○				1					
			異文化演習	2・3前	1	○	1								
			異文化コミュニケーション演習	2・3後	1	○	1								
			言語理解演習	2・3前	1	○	1								
			対照言語コミュニケーション演習	2・3後	1	○	1								
			英語エクスペリメンタルスキル	2・3・4前	2	○	1								
			韓国語エクスペリメンタルスキル	2・3・4前	2	○		1							
			中国語エクスペリメンタルスキル	2・3・4前	2	○				1					
			心理総合領域	臨床心理学	2前	2	○	1							
				心理学研究法	2前	2	○	3	1				兼1	オムニバス	
				心理学統計法	2前	2	○						兼1		
				心理測定法	2前	2	○	1							
				人格心理学	3前	2	○	1							
				知覚心理学	2後	2	○	1							
				学習心理学	2後	2	○						兼1		
				神経心理学	3後	2	○						兼1	隔年	
				生理心理学	3後	2	○						兼1	隔年	
				キャリア発達の心理学	3前	2	○	2	1					オムニバス	
				健康・医療心理学	3後	2	○						兼1		
				発達心理学	2前	2	○		1						
				教育相談	4後	2	○	1							
				対人関係論	3後	2	○		1					隔年	
対人行動論	3後	2	○	1						隔年					
対人認知論	3前	2	○	1						隔年					
福祉マネジメント領域	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2前	2	○		1									
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2後	2	○						兼1					
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2・3前	2	○		2					オムニバス				
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2・3後	2	○		1	1				オムニバス				
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3・4前	2	○			1								
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3後	2	○			1								
	社会福祉概論Ⅱ	2・3前	2	○						兼1					
	地域福祉論Ⅱ	2・3・4前	2	○		1									
	刑事司法と福祉	2・3前	2	○						兼1					
	社会福祉施設運営論	2・3後	2	○			1								
	社会保障論Ⅰ	3後	2	○						兼1					
	社会保障論Ⅱ	4前	2	○						兼1					
	公的扶助論	2・3・4前	2	○						兼1					
権利擁護と成年後見制度	3・4前	2	○						兼1						
小計(51科目)	—	94	—	7	4	3			兼10						

専 門 教 育 科 目	専 門 発 展 科 目	実 践 領 域	グ ロー カ ル コ ミュ ニ ケー ション 実 践	英語エクスペリメンテーション実践	2・3・4後	1			○										兼1				
				韓国語エクスペリメンテーション実践	2・3・4後	1			○				1										
				中国語エクスペリメンテーション実践	2・3・4後	1			○						1							共同	
				国際コミュニケーションスキル	2・3前	1			○				1			1						共同	
				マルチ言語プロジェクト	2・3後	2				○			1			1						共同	
				プロジェクトツアーA	2・3前	2					○					2						共同	
				プロジェクトツアーB	2・3後	2					○		2									共同	
				心 理 総 合 実 践	心理学基礎実験	2前	1					○		2	1								兼1 オムニバス
					心理学実験A	2後	1					○		2	1								兼1 オムニバス
					心理学実験B	3前	1					○		2	1								兼1 オムニバス
		社会心理学調査実習	3後		1					○		2									共同		
		心理検査法実習	3後		1					○		1									兼1 オムニバス		
		心理的アセスメント	3後		2				○			1									兼3 オムニバス		
		臨床心理学演習	3前		1																兼1		
		心理演習	3通		2					○		3	1										
		福 祉 マ ネ ジ メ ン ト 実 践	社会福祉士演習Ⅰ	4前	1					○			1	1							オムニバス		
			社会福祉士演習Ⅱ	4後	1					○			1	1							オムニバス		
			ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前	2					○		1	1								オムニバス		
			ソーシャルワーク演習Ⅱ	2後	2					○		1		1							オムニバス		
			ソーシャルワーク演習Ⅲ	3前	2					○				1							兼1 オムニバス		
			ソーシャルワーク演習Ⅳ	3後	2					○		1									兼1 オムニバス		
			ソーシャルワーク演習Ⅴ	4前	2					○		1	1	1							オムニバス		
			ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	3前	1					○		1	2	1							兼1 オムニバス		
			ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3後	1					○		1	2	1							兼1 オムニバス		
			ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	4前	1					○		1	2	1							兼1 オムニバス		
			ソーシャルワーク実習Ⅰ	3前	2					○		1	2	1							兼1 共同		
			ソーシャルワーク実習Ⅱ	3後	4					○		1	2	1							兼1 共同		
		小計(27科目)	—	41					—		6	4	3							兼3			
		究 卒 業 目 的	課題研究	3後	1					○		7	4	3									
			卒業研究	4通	4					○		7	4	3									
			小計(2科目)	—	5					—		7	4	3									
		自 由 科 目	リ メ デ イ ア ル	社会科学基礎(言語・国語)	1前		1			○											兼1		
				社会科学基礎(社会)	1前		1			○											兼1		
				自然科学基礎(数学)	1前		1			○											兼1		
				自然科学基礎(理科)	1前		1			○											兼1		
				国際言語基礎(英語)	1前		1			○											兼1		
				小計(5科目)	—	5				—												兼5	
			司 書 資 格 に 係 る 科 目	図書館サービス概論	2・3前		2		○													兼1	
				情報サービス論	2・3前		2		○													兼1	
				児童サービス論	2・3後		2		○													兼1	
				情報サービス演習A	2・3後		1			○												兼1	
				情報サービス演習B	2・3前		1			○			1										
				図書館情報資源概論	1・2後		2		○													兼1	
				情報資源組織論	1・2前		2		○													兼1	
情報資源組織演習A	1・2後				1			○												兼1			
情報資源組織演習B	2・3前				1			○												兼1			
図書館基礎特論	1・2後				1		○													兼1			
図書館サービス特論	2・3後				1		○													兼1			
図書館情報資源特論	2・3前				1		○													兼1			
図書・図書館史	1・2後				1		○													兼1			
小計(13科目)	—		18				—			1									兼1				
資 格 科 目	デジタル・アーキビスト概論		2・3前		2		○													兼1			
	地域文化とデジタル・アーカイブ		2・3後		2		○													兼1 ※演習			
	小計(2科目)		—	4			—													兼1			
ア キ ヤ 支 援 リ	TOEIC対策		1・2・3・4前		1				○		1												
	韓国語検定対策		1・2・3・4前		1				○			1											
	中国語検定対策		1・2・3・4前		1				○				1										
	小計(3科目)		—	3			—			1	1	1											
合計(190科目)				—	16	269	27	—		10	5	3							51				

学位又は称号	学士（人間関係学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
卒業要件（合計124単位以上 *自由科目を除く） ・基礎教育科目33単位以上（含 必修7単位、選択必修26単位以上） ・専門教育科目66単位以上（必修4単位、選択必修62単位以上） ・卒業研究科目5単位必修 必修科目（合計16単位） ・基礎教育科目 6科目7単位 ・専門教育科目 3科目4単位 ・卒業研究科目 2科目5単位 選択必修（下記の要件を満たし、合計88単位以上） ・基礎教育科目（26単位以上） 「基礎教養」より8単位以上 「地域事情」より4単位以上 ・中心科目（2単位以上） 「人間関係プロジェクトA・B・C」より2単位以上 ・専門基盤科目（22単位以上） 「人間の理解」より8単位以上 「関係の構築・調整」より4単位以上 「協働力」より4単位以上 ・専門発展科目（38単位以上） 「グローバルコミュニケーション領域」「心理総合領域」「福祉マネジメント領域」のどれか1区分から20単位以上 ・実践領域の「「グローバルコミュニケーション実践」「心理総合実践」「福祉マネジメント実践」の一区分から4単位以上 上記の必修・選択必修科目104単位に加え、基礎教育科目、専門教育科目から合わせて20単位以上、総計124単位以上を取得すること。			1学年の学期区分	2期
			1学期の授業期間	15週
			1時限の授業時間	90分

別記様式第2号（その3の1）

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間関係学科)			
区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	入門ゼミ	基礎ゼミⅠ	大学教育における学びを最大化するための基礎的な技能として、学修に関する基礎的な知識・技能の修得を目的とし、論理的な表現力、伝わる表現力の基礎的な養成を目標とし、論説的な文章や調査に基づくデータを読解し、意味を取り出すトレーニングを行う。また、その意味を伝える的確な表現の重要性を理解しレポートの作成方法を修得する。
基礎教育科目	入門ゼミ	基礎ゼミⅡ	「基礎ゼミⅠ」に引き続き、コミュニケーション能力と各専門分野について考えるための基礎的思考力を修得することを目的とし、コミュニケーションに必要なツールの有効な活用方法とプレゼンテーションの意義を理解する。また、的確な課題設定と調査、探究の基礎を学び、適切な表現方法を用いてプレゼンテーションを個人で行えることを目標とする。
基礎教育科目	基礎教養	文章表現の技術	社会の出来事に幅広く関心を持ち、理解するための知識・技能の修得のうち、特に言語（文章表現）について理解を深め、基本的な文章表現スキルを習得し、学修及び将来の職業・社会生活に活かすことをねらいとする。多元・多様な目的や条件を設定しながら、文章を書くことを実践するとともに、自らの表現力への転移を図るために、目的や趣旨にかなった実例について分析し、そのポイントや工夫を学ぶ。
基礎教育科目	基礎教養	くらしと倫理学	基礎教養としての「倫理学」を学ぶ。「倫理」という言葉を丁寧に調べることで、くらしの倫理とは何か？家族倫理とは何か？世代間倫理とは何か？情報倫理とは何か？メディア倫理とは何か？について考えていく。内容としては、ケータイやスマートフォンなどの、情報メディア革命による社会環境の急激な変化と、変貌する「くらしの倫理」とに、対応できる倫理観について、テキストや辞書、さらに日々の新聞記事やビデオ教材を参考にしながら、皆で意見を交換したり、レポートにまとめたりして、各自が自分の意見を固め、表現できるようにする。
基礎教育科目	基礎教養	くらしと文学	基礎教養としての「文学」について学ぶ。主に、古典文学を素材に、日本文化の特質等を通して作品を理解していく。まず、日本の文化を外国文化の受容とそこから生まれる独自性という視点から、全体的に捉える。そして、これらが日本の古典文学にどのように反映しているのか、時代、社会の変化とともに追ってみながら文学作品と現代のわたしたちの生活文化との関わりを理解する。取り上げる作品は、上代から近世までの主要な作品であり、これをおして、日本の古典文化と文学史の基礎知識も得ていく。
基礎教育科目	基礎教養	くらしと憲法	基礎教養としての「憲法」についてわたしたちのくらしとの関わりを考えながら学ぶ。憲法は、国の最高規範であり、国政の運用はすべて憲法に従って行われなければならない。その意味で、主権者である国民は、憲法がどのような理念及び基本原則から作られ、どのような内容を持つかについて十分理解しておくことが必要であり、それは一方で国民の責務でもある。そのような視点から、日本国憲法の基本的な仕組み・内容の理解に重点をおき、国民であるわたしたちがどう憲法と向き合うべきかを考える。
基礎教育科目	基礎教養	くらしと経済	基礎教養としての「経済」について学ぶ。私たちのくらしと深い結びつきを持つ、日本の「産業構造のしくみ」を理解するために必要な基礎的統計資料等をテキストとして編集して配布資料とし、同時に統計の読み方を学修する。なかでも以下の6つの課題を学習する。①人口の動態とその推移を学ぶ。②少子・高齢化時代の社会と生活、特に少子化対策を考える。③わが国のエネルギー資源の現状を学び、同時にエネルギーの国際環境を学ぶ。④企業のしくみと社会との関係性を学ぶ。⑤日本産業の中核部分たる製造業の1960年代以降の動きと実態を学ぶ。

基礎教育科目	基礎教養	くらしと哲学	基礎教養としての「哲学」について学ぶ。「在る」とは何か。「在る」ことの不思議さを古代ギリシア人は、タウマゼイン(存在驚愕)と名付けたが、この授業では、ヨーロッパ文化の源泉としての古代ギリシア哲学について学ぶことを通して多様なものの考え方や生き方について総合的に理解する力を培う。また、意見交換等によって自ら考える姿勢や課題解決能力を身に付ける。哲学が科学や宗教とどのように異なるか、哲学の祖タレスの意義、想起説を唱えたソクラテス、アイデアを探究したプラトン、学問体系の創始者アリストテレス、そしてストア学派、懐疑派など、ギリシア哲学の第一期から第三期までを順に学修していく。	
基礎教育科目	基礎教養	日本語のしくみ	基礎教養としての「日本語のしくみ」について学ぶ。あたかも空気のように身の回りにありながら見えない、アタリマエのことばについて考えるため、さまざまなトピックスに基づいて、日本語を客観的かつ批判的ににとらえるための視点を身につける。取り扱うテーマは、音声、語彙、表記、文法、方言と標準語の、大きく分けて5分野に相当し、各テーマ内では1回読みきり型のトピックスを取り上げ、身近な話題から理論的な話題にまで適宜グループワークもとり入れながら展開させる。	
基礎教育科目	基礎教養	ことばとコミュニケーション	基礎教養としての「ことばとコミュニケーション」の関係性について学ぶ。私たちが言葉を発したとき、いつも意図通りに理解されるとは限らない。ことばが生むさまざまな誤解には、どんなものがあるのか。また、ことばは変わる。ことばの用法の変化には、どんなコミュニケーション上の動機があったのか。標準語が普及し、以前に比べて方言があまり使われなくなっている。では、今、方言のコミュニケーション上の役割とは何か。このような観点から、ことばとコミュニケーションの関わりを見ていく。	
基礎教育科目	基礎教養	民俗と歴史	民俗とは、祭礼行事・芸能・信仰・生活用具・民話など一般庶民の生活文化・伝承文化をさす。暮らしの中で代々伝承されてきたそれら有形と無形の民俗資料や事象を調査研究の対象とし、そこに見出される人々の心意や精神性などを明らかにしようとするのが民俗学である。本科目では民俗学を伝承史学ととらえ、民俗資料や事象を考察するにあたっては常に地域の歩みや暮らしの変遷と重ね合わせて理解していく。民俗と歴史を一体的に学ぶことを通して「人間」を総合的に把握しようとするものであり、授業では主に山形県内の民俗事例を考察の対象とする。	
基礎教育科目	基礎教養	社会学と社会システム	基礎教養としての「社会学の考え方、視点」について学ぶ。現代社会にはさまざまな問題が噴出ししている。これから家族、労働、性愛、地域はどうなっていくのか。さまざまな社会問題について、その実相や背景を検討していきながら、それらが今後どうあるべきか、またそのために何をすべきか、といったことを考えていく。毎回ひとつずつ具体的な社会問題を取りあげ、それに関連する資料やデータをもとに、参加者どうしで意見交換を行ったり、それをうけての解説を行ったりしながら進めていく。	
基礎教育科目	基礎教養	環境と生物を考える	基礎教養としての「環境と生物」について学ぶ。生物と環境との関わりについての見方や考え方を、体験型実験・実習を通して学修し、生物の多様性や生物の同定方法を実感するとともに環境保全の重要性を理解する。月山と寒河江川をフィールドとして、「高山植物と環境」「水圏における光合成生物と環境」「底棲生物と河川環境」「植物の形態と検索」について実習し、われわれの周囲に数多くの生き物が生きていることやその生息が環境と密接に関係していることを実感、理解し、その考察として生物の多様性や生物の環境に対する適応、さらに環境保全の重要性について理解を深める。	共同
基礎教育科目	基礎教養	生物学の探究	基礎教養としての「生物学」について学ぶ。普段、飲食している栄養ドリンク剤や食べ物に記載されている物質について考えるためには、記載されている物質が、生命を維持する「しくみ」でどのような役割を担っているかを知る必要がある。また、これらの「しくみ」は環境に順応する形で進化し獲得されてきた。授業では、生物がどのような物質を、どのように活用して現在の生存と繁殖のシステムを進化させてきたかを、体を構成する基本物質の化学的性質や基本的な化学反応を考えながら進める。授業中に課題を出し、グループあるいは個人で考え、考え方を発表し、つまづきを確認しながら進める。	
基礎教育科目	基礎教養	人間と宇宙を考える	基礎教養としての「天文学」について学ぶ。宇宙を科学的に理解することは、生命観・自然観・人生観を考える上で大切であると考え、この授業では現代天文学が明らかにしてきた宇宙について学修する。前半は、光学望遠鏡の仕組み等、星空を見るために必要な知識や技術を学修する。後半の内容は、宇宙物理学が主になる。はじめに恒星について学び、銀河や宇宙全体へとスケールアップしていく。	

基礎教育科目	外国語	英語 I	英語の基礎・基本力固めに照準を合わせ、英語を理解するための道具である「英文法」を英語圏文化の諸相を語る様々なエッセイの読解と関連する演習問題を通して英語運用力を向上させ、英語文化の基礎知識を身につけさせることをねらいとする。①各自事前学修時に関わる聴解作業成果の確認。②基本的文法構造の実践演習成果の確認。③英文テキストの読解作業及び応用課題実践演習成果の確認。これら一連の学修・演習を通して、毎講義時間内に取り扱う英語素材の内容理解を深める。	
基礎教育科目	外国語	英語 II	基礎的な英語のリーディングの知識を確認しながら、比較的平易な英語で書かれた日常的なテーマに関する文章を読み、単語力強化から運用能力の増強、英語による表現力の鍛錬に至るまで「自分が使える英語」を身につけることを目的とする。授業においては、文法事項の確認をしながらボキャブラリー強化とその運用練習、さらには誤文添削の課題等により学修内容の定着を図る。また、日常生活をテーマにした作文をするなど、適宜実力強化の機会を設ける。また、授業は質疑応答を通して実践力を養う。	
基礎教育科目	外国語	英語コミュニケーション I	All students have studied English for many years. One main aim of this course is to help students remember and produce that English in easy situations which deal with everyday conversations and scenarios. Classes will be largely practical. Students will practice Q&A patterns, conversations and role-playing. Students will be tested both individually and in small groups. 長年学んできた英語を実用的なものにするため、本授業では、日常会話や日常のありふれた場面で使える英語を学ぶとともに、容易に英語を使えるようにすることを主目的とする。授業内容は実用的なものになり、具体的には、Q&Aによるパターン練習、学生同士での会話やロールプレイを行う。 なお、テストについては、個人別での評価と小グループでの評価の両方を行う。	
基礎教育科目	外国語	英語コミュニケーション II	This course will cover two main aspects of English: 1) Everyday English conversation and 2) Teaching English to children. An important addition is the focus on non-verbal methods of communication in order to clarify verbal communication. この授業では、主に2つの側面からのアプローチをとる。一つは、英語による日常会話の訓練、そして2点目は、子どもにも英語を教えられるようなスキルを身につけることである。ことばによってたしかかなコミュニケーションをとるためには、ことば以外によるノンバーバルなコミュニケーション方法が必要であることを十分意識しながら授業を進める。	
基礎教育科目	外国語	韓国語 I	初修外国語として韓国語を学ぶ。韓国固有の文字ハングルの特徴を理解し、その発音や書き方について学ぶ。最初はハングルの基本文字を覚え、読み書きできるように繰り返し練習を行う。文字に慣れてきたら、韓国語で自己紹介やあいさつなど簡単な会話を練習するとともに、様々な韓国の文化や習慣などを取り上げ、韓国理解を深める。	
基礎教育科目	外国語	韓国語 II	「韓国語 I」の既習内容を基礎力に、基本的な会話を通して話しことばによるコミュニケーションの力がつくように学修する。中でも日常生活でよく使われる表現（数字、日付、曜日、時間、値段など）を覚え、これらを中心に身近なことや言いたいことを組み合わせさせて練習する。また、韓国事情にもできるだけ触れ、韓国に対する理解を深める。	
基礎教育科目	外国語	中国語 I	中国語の基礎を身につけることを目標とする。まず中国語の発音の仕組み、四声、母音、子音を丁寧に学習した上で、基礎的な単語、文法、会話の学習へと進む。聞く、話す、読む、書くの4つの技能をバランスよく融合して修得できるよう練習を繰り返し、簡単な挨拶、自己紹介、簡単な日常会話ができるようにする。	

基礎教育科目	外国語	中国語Ⅱ	「中国語Ⅰ」を履修した学生を対象として、「中国語Ⅰ」よりやや難易度の高い基本的な単語、文法事項、短い文章、日常会話を学修する。聞く、話す、読む、書くの4つの技能をバランスよく融合して修得できるよう練習を繰り返し、より長い会話ができて、短文が読めて、簡単な翻訳ができるよう目指す。「中国語Ⅰ」に続けて一年間学修すると、中国語検定試験4級程度の実力を身につける。	
基礎教育科目	外国語	フランス語Ⅰ	初修外国語としてフランス語を学ぶ。初級フランス語の基本事項を身につけることをめざす。テキストに描かれる様々な場面や状況での会話を段階的に覚える。発音や文法知識の修得を中心しつつフランスの歴史や文化、生活習慣についても学び、異なる文化や社会、多様な価値観を理解する力を養う。また、新しい知識を獲得していく際に必要な学びの基礎力を培うことも目的とする。	
基礎教育科目	外国語	フランス語Ⅱ	「フランス語Ⅰ」と同様のテキストに描かれる様々な状況での会話を覚えることを通して、フランス語の基礎力の完成をめざす。発音、文法知識の修得を中心としながら、フランスの歴史や文化、生活習慣についても学び、異なる文化や社会、多様な価値観を理解する力を養う。また新しい知識を獲得していく際に必要とされる、学びの基礎力を培うことも目的とする。	
基礎教育科目	保健体育	スポーツサイエンスⅠ	健康の維持増進やスポーツに関する知識・技能の修得と、学生が運動に親しむことを目指す。生涯にわたる健康についての知識と様々なスポーツについてのルールや運動特性、基本技術、ゲームの運営方法について学び、生涯スポーツの基礎となる知識、技能の修得を目指す。「健康」に関する各テーマについては、二人組やグループでの学び合い学修で授業を行っていく。「スポーツ」に関する各テーマに関しては、学生が主体的・協同的な学びの中で授業を進める。	
基礎教育科目	保健体育	スポーツサイエンスⅡ	生涯にわたる健康についての知識を学ぶとともに、様々なスポーツ種目を通じて、それぞれのルールと運動特性、基本技術、ゲームの運営方法について学び、生涯スポーツの基礎となる知識、技能の修得を目指す。「健康」に関する各テーマについては、二人組やグループでの学び合い学修で授業を行っていく。「スポーツ」に関する各テーマについては、学生が主体的・協同的な学びの中で授業を進める。	
基礎教育科目	情報処理	コンピュータ基礎演習	大学における学修活動や社会での活動に必要な基盤的情報技術を演習を通して修得する。前半は、文書処理技術を扱う。各種編集機能・作表機能を用い、社会でやり取りする文書・通常のレポート作成がスムーズに行えることを目指す。後半は、表計算ソフトを用いた数値処理を扱う。基本的な計算処理にとどめず、コンピュータで数値を扱う上での注意点を端数処理を通して学んだり、複雑な処理を行うために必要な条件分岐の活用を修得する。	
基礎教育科目	情報処理	情報倫理	大学における学修活動や社会での活動に必要な「情報に関する倫理」の基本的、実践的な知識を修得する。ググるとい言葉が一般化したことから分かるように、現在は知りたいことをWebで検索することが日常化している。この背景には、情報検索において、検索者の障壁になっていた点のサポート機能をGoogleが充実させた点がある。この科目では、そもそも情報検索とはどのようなものなのか、そして当初の情報検索にはどのような問題があったのかを学ぶとともに、Googleが実現させたサポート機能について学ぶ。	
基礎教育科目	情報処理	情報検索	大学における学修活動や社会での活動に必要な情報検索の基本的、実践的な知識を修得する。コンピュータを使った情報検索の仕組み・方法を学ぶとともに、Webやオンラインのデータベースによる検索演習を通して、実践的な検索能力を身につける。前半ではGoogleやYahooなどによるWebの検索、後半はデータベースの検索を扱う。	
基礎教育科目	情報処理	情報処理演習Ⅰ	大学における学修活動や社会での活動に活用できる応用的な情報技術を演習を通して修得する。前半は、画像処理と文書処理技術を扱う。特に、画像を利用した情報量の多い文書の作成や論文など長文の編集技術を修得する。後半は、表計算ソフトを用いた数値処理を扱う。複数の表を連携させリレーショナルデータベース的に扱う技術や様々な条件下で計算を行う技術を修得し、複雑な計算処理が行えることを目指す。	

基礎教育科目	情報処理	情報処理演習Ⅱ	大学における学修活動や社会での活動に活用できる情報の分析・評価の方法について学ぶ。身の回りには、数であらわされる数値データや文字であらわされるテキストデータがあふれている。本授業では、このようなデータから法則を見出す術について学ぶ。数値データの処理については、数値データが何を意味しているのかという統計の基礎を学ぶとともに、アンケート作成演習や表計算ソフトを用いた表データの収集・分析・評価を行う。テキストデータの処理については、テキストマイニングを学ぶ。	
基礎教育科目	情報処理	情報処理演習Ⅲ	より高度で効率的な情報処理技術を修得するためプログラミング技術を演習を通して学修する。主流であるオブジェクト指向プログラミングに対応するため表計算ソフト上で演習を行う。基本的なアルゴリズムを学修したのち、表計算処理をより活用できるような実用的プログラムの作成を演習する。さらに、表計算内にとどまらず画像等の操作も可能なように発展させる。	
基礎教育科目	情報処理	ネットワーク応用演習	情報処理の応用的な技術のうち、現代的なウェブサイト構築に必要な不可欠な「CSS（カスケードニング・スタイルシート）」を用いたウェブデザインの基礎を学ぶとともに、CSSの前提となる「構造化されたHTML」についても学ぶ。授業内容は、まずHTMLの基礎を学び、その後に既存ページのデザインのカスタマイズを通して、CSSによるデザイン手法を修得していく。最終的には授業で学んだCSSの知識を活かした独自の小規模ウェブサイトを作成させることを目標とする。	
基礎教育科目	情報処理	情報機器演習	現在の生活では、パソコンやスマートフォンなどの情報機器が欠かせないものになっている。この科目ではこれらの情報機器について、ハードウェア面での知識について学ぶとともに、デジタルカメラの撮影方法についても学ぶ。授業内容としては、まず情報のデジタル化について学び、その後パソコン、スマートフォン、デジタルカメラの仕組みなどについて学び、デジタルカメラの学びについては、構図などの撮影に必要な知識についても学ぶ。	
基礎教育科目	図書館	生涯学習概論	人間の生涯にわたる「学習」の営みが「生涯学習」である。欧米における生涯学習の理念の成立の過程、その日本への導入の過程を理解した上で、主に日本における生涯学習に関わる施策・制度を理解する。さらに、そこで指す「学習」の多義性や展開をふまえ、生涯学習社会を実現していくための現実的課題を理解し、図書館の果たす役割について考える。	
基礎教育科目	図書館	図書館概論	図書館の機能や社会的意義・役割についての理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館の各役割・機能・利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格（司書）、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。図書館に関する基本知識を修得するとともに、他の司書資格科目学習のための基礎を培う。	
基礎教育科目	図書館	図書館制度・経営論	図書館経営・サービスの基盤となる法的根拠と政策について理解する。また、公共図書館経営に関する諸要素（人、施設・設備、財源等）の概要と現状を知り、経営計画作・評価作業に携わるための基礎知識を修得する。図書館に関する法律、関連領域の法律、図書館政策について解説する。公共図書館経営について、その考え方、職員・施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等を学修する。	
基礎教育科目	図書館	図書館情報技術論	図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得する。コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説を行う。最終的に、図書館が情報技術をどのように活用できるかを、自分の頭で考えられるようになることを目的とする。	

基礎教育科目	地域事情	山形の歴史・文化	この授業では、「山形」を主として山形市域としてとらえて、大学が位置する山形市および南山形地区の歴史と文化を学習の対象エリアとし、地域学習の意味合いをもたせることに重点をおく。学習にあたっては、原始・古代から始まって山形の歩みとくらしの変遷を編年的に学んでいくことを主とするが、山形として特色ある歴史と文化をトピックス的に取り上げて地域性を浮き彫りにする。むろん、「そのとき日本はどうであったか」という列島史との関わり合いも踏まえながら、「地域（山形）から日本の歴史・文化が見える」という観点をもって考察する。なお、本科目で取り上げる文化とは「民俗文化」が主なものとなる。	
基礎教育科目	地域事情	山形の政治と行政	少子・高齢化と人口減少による地域社会の縮小が著しい山形県において、山形県庁や山形県内市町村が行なっている地域創生の特徴的な取り組みを学修することにより、学生に地域創生への関心を喚起し、地域社会が抱えな課題を発見・解決するために必要な実践的知識と能力を養う。このために、地域創生の成功例と失敗例について具体的な事例をとりあげて解説し、これを通じて、地方自治の仕組みや政府の「地方創生」政策の展開を学ぶとともに、行政と企業、NPO、市民等の協働をどのように組み立てていけばよいのかを考え、実践する力を身につける。	
基礎教育科目	地域事情	山形の産業と経済	この授業では、山形県の地域産業（農林水産業、製造業、サービス業など）と地域資源（歴史、特産品、生活文化など）について学び、地域産業・地域資源を活用して地域を活性化する方法を理解し、自ら実践できるようになることを目標にする。授業はまず山形県内の地域産業の特性と具体的な事例について学び、次にさまざまな地域資源の分類やその発見方法および地域における具体的な活用事例（視察を含む）を理解する。最後に、地域資源・地域産業を地域の活性化に活かすための政策について学ぶ。	
基礎教育科目	地域事情	山形のことばとくらし	山形で使われていることばにどのようなものがあり、どのように発生し、変化してきているのかを学ぶため、山形で昔から使われてきたことば（方言）の特徴を概観した上で、山形の各地域におけることばの違いを分析する。さらに、方言の歴史的な成立や、使用されることばの変遷についても取り上げ、ことばの成立や変遷にかかわる人々のくらしの様子や変化をも視野に入れ、ことばとくらしの関係についても学びを深める。	共同
基礎教育科目	地域事情	山形の信仰と伝承	山形に今も伝わる出羽三山に代表される山岳信仰などの民間信仰がどのような地域性を歴史的に育んできたのか。また、信仰に伴って数多くの伝承が伝説や昔話などとして伝えられているが、それらは山形の人々のくらしにどのように関わりながら伝承されてきたのか。今の山形をこうした信仰と伝承の観点からとらえかえす視点を学ぶ。	
基礎教育科目	海外事情	アメリカ事情	現代の日本が置かれている状況を正確にとらえ、世界情勢を適切に理解するため、国家としてのアメリカの現在を、歴史的・社会的視点から把握するための基礎知識を修得する。具体的には、日本との関係を含めた世界的な情勢を視野に入れつつ、アメリカ国家の歴史的特徴や社会体制の特色を理解し、グローバルな視点からアメリカが抱える国家レベルの課題や社会問題を理解する。	
基礎教育科目	海外事情	ヨーロッパ事情	現代の日本が置かれている状況を正確にとらえ、世界情勢を適切に理解するため、総体としてのヨーロッパの現在を、歴史的・社会的視点から多角的に把握するための基礎知識を修得する。具体的には、日本との関係を含めた世界的な情勢を視野に入れつつ、欧州連合としての歴史的特徴や国際関係上の問題点を理解し、グローバルな視点からヨーロッパ全体を把握する。	
基礎教育科目	海外事情	中国事情	古来より密接な交流を重ねてきた中国と日本との間には、極めて類似した文化や習慣がある一方で、双方が辿った歴史の中で醸成された独自の文化や問題も存在する。中国に根付く前近代社会から継承されてきた文化や、今日の国家としての中国が抱える諸問題について学び、他者でもあり隣人でもある中国についての理解を深めつつ、それとの比較検討により現代の日本や国際社会の様相についても考える。	

基礎教育科目	海外事情	韓国事情	現代の日本が置かれている状況を正確にとらえ、世界情勢を適切に理解するため、国家としての韓国の現在を、歴史的・社会的視点から、多角的に把握するための基礎知識を修得する。具体的には、日本との関係を含めたアジア情勢を視野に入れつつ、韓国の歴史的特徴や社会体制の特色を理解し、グローバルな視点から韓国が抱える国家レベルの課題や社会問題を理解する。	
基礎教育科目	海外研修	海外語学研修A（英語）	各研修先において2～3週間のプログラムに参加し、他国の学生と共に英語を学びつつ、各種アクティビティにより現地の文化や社会についても体験的に学ぶ。研修先は、英ロンドンの語学学校（前期、8月中旬～9月初旬）、米カリフォルニア州シトラスカレッジ（後期、3月中）、米ハワイ州オアフ島リーワードコミュニティカレッジ（前期、8月中旬～9月初旬）、オーストラリアのケアンズの語学学校（後期、2月末～3月中旬）の全4か所。渡航にあたり、渡航手続き説明を含め、事前に入念なガイダンスを行い、帰国後には学修成果をまとめて発表する機会を設ける。	
基礎教育科目	海外研修	海外語学研修B（韓国語）	ソウル女子大学にて3週間の韓国語の語学研修（前期、8月中）に参加し、現地での語学学習活動および課外活動を通して、生きた韓国語を学ぶ。また、現地でのエクサカーションにより、その国の文化や歴史に直接触れ、異文化理解を深める。渡航にあたっては、渡航手続き説明を含め、事前に入念なガイダンスを行い、帰国後には学修成果をまとめて発表する機会を設ける。	
基礎教育科目	海外研修	海外語学研修C（中国語）	国立台湾師範大学での3週間の台湾語学研修（前期、8月中）に参加し、現地での語学学習活動および課外活動を通して、生きた中国語を学ぶ。また、現地でのエクサカーションにより、その国の文化や歴史に直接触れ、異文化理解を深める。渡航にあたっては、渡航手続き説明を含め、事前に入念なガイダンスを行い、帰国後には学修成果をまとめて発表する機会を設ける。	
基礎教育科目	社会体験	ボランティア論	自己と社会との関わりを考える社会体験としてのボランティア活動について、その概念・歴史を理解し、今日における役割と課題について理解する。また、ボランティア活動の活動領域、活動形態の多様性を理解し、ボランティア活動を実践する素地を養う。具体的には、次のことを学び、修得する。①ボランティア活動の概念・歴史、②ボランティア活動の活動領域、活動形態、社会的意義、③福祉教育とボランティア活動、④ボランティアマネジメント。	
基礎教育科目	社会体験	ボランティア活動実践	社会体験としてのボランティア活動の実践に必要な心構えを理解し、地域社会の中での社会活動や福祉・医療現場における介護支援等、教育現場における学習支援、障がい児支援等の活動に、地域社会や社会福祉協議会、その他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。そのボランティア活動の実体験を通して、自己を取り巻く世界や環境を知る。具体的には、次のことを学び、修得する。①ボランティア活動のルールや心構え、②ボランティア活動の実体験。	
基礎教育科目	社会体験	企業研究	自己と社会との関わりを考える社会体験としてのインターンシップに向けて、「企業」とは何か? 「企業」活動の実態、各種業界の動向等の理解とそこで働くためのマナーやルール、さらに自己の人生設計（キャリアデザイン）の重要性を学ぶ。戦後から高度成長期を経て大きく変貌しつつある「企業」とどう向き合っていくことが必要なのか、自己の在り方を考える視野を学んでいく。	
基礎教育科目	社会体験	インターンシップ	社会体験の実践として一般企業をはじめとする各種の事業所においてインターンシップを実施する。実際の職場に身を置いて、仕事を体験することで働くということを通して、自分は社会とどうつながっていくべきなのか、自己の課題を見出すことで自己と社会との関わりを考えていく。事前のガイダンスのなかでインターンシップに臨む自己の課題を設定し、職場体験後の振り返りで課題の再確認や新たな課題の発見を得ることを目標とする。	共同

専門教育科目	中心科目	人間関係論	<p>(概要) 人間関係学を構成する概念である「対人認知」、「社会的相互作用」、「コミュニケーション」と3つの専門分野（コミュニケーション学、心理学、社会福祉学）の関連と、人間関係学科が育成を目指す人間関係力、すなわち「人間を総合的に理解する力」、「人間関係を調整する力」、「人間関係を機能させる力」の内容について学修し、専門教育科目の学修の目的を理解するとともに、自己の研究テーマについて考える。 (オムニバス方式/全15回) (2 大江篤志/5回) 人間を総合的に理解することについて、自己・自我の理解から個人の性格、対人関係、集団におけるグループダイナミズムと段階的に論じていく。 (3 黒沢晶子/5回) 人間関係を調整することについて、対人関係における意思疎通、説得の方法、仕事と人間関係の円滑化、意思決定と人間関係などについて、異文化理解の観点を含めて論じていく。 (12 南條正人/5回（令和3年度）、6 橋本美香/5回（令和4年度から）) 人間関係を機能させることについて、ソーシャルサポートの事例を通じて、多様な人々が対人援助等を得ながら共生・協働する社会が、どのように機能していくことが可能かを論じていく。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	中心科目	人間関係演習Ⅰ	人間関係論の本格的実践として3年次に設定されている「人間関係プロジェクト演習」受講の準備段階として、所定の研修先へ行き、現場にて人間関係の視点から観察実習を行う。実社会の現場で人間関係にまつわる諸問題がどのような形で現れ、それぞれの場でいかなる対応や対策をしているのかを直接的に観察学習することで、社会の実態を知るとともに、学生自らが現場での課題のありようを認識し、協働・共生社会の実現に向けて必要とされる知見を得ることを目的とする。	共同
専門教育科目	中心科目	人間関係演習Ⅱ	人間関係論の本格的実践として3年次に設定されている「人間関係プロジェクト演習」の準備科目「人間関係演習Ⅰ」の後続科目として、所定の研修先での観察実習から得られた知見をさらに実践的な場で進展させ、より具体的かつ実質的な成果を目指し、現場での活動に携わりながら人間関係の視点からの思考力と現場実践力を鍛えることを目的とする。	共同
専門教育科目	中心科目	人間関係プロジェクトA (コミュニケーションと心理)	3年次必修に設定されている本科目では、文化・国籍・言語・所属・世代など、さまざまに立場や地位が異なる人々がかかわる場を想定し、観察実習を行う。ことばやコミュニケーションの力、そして心理学的知見を応用し、協働・共生の精神に基づく活動を行うことを目指す。	共同
専門教育科目	中心科目	人間関係プロジェクトB (福祉とコミュニケーション)	3年次必修に設定されている本科目では、文化・国籍・言語・所属・世代など、さまざまに立場や地位が異なる人々がかかわる場を想定し、観察実習を行う。ことばやコミュニケーションの力、そして福祉にかかわる知見を応用し、協働・共生の精神に基づく活動を行うことを目指す。	共同
専門教育科目	中心科目	人間関係プロジェクトC (心理と福祉)	3年次必修に設定されている本科目では、文化・国籍・言語・所属・世代など、さまざまに立場や地位が異なる人々がかかわる場を想定し観察実習を行う。心理学的知見および福祉にかかわる知見を応用し、協働・共生の精神に基づく活動を行うことを目指す。	共同
専門教育科目	専門基盤科目 人間の理解	心理学概論A	心理学という学問を成り立たせている考え方や方法について学び、心理学が心のはたらきを科学的に研究する学問であることを理解する。さらに、基本的な感覚・知覚心理学、認知心理学、学習心理学、社会心理学を中心に、心理学の基本的事項について学修する。	
専門教育科目	専門基盤科目 人間の理解	心理学概論B	人間の基本的な心のはたらきのうち、主に情意的側面について学習し、人間性に対する理解を深める。感情、動機づけ、人とのかかわりの中で働く力や、そのような働きを傾性を表す概念であるパーソナリティについて学修するほか、各領域における心理測定の実例や質的研究の方法についても学修する。	

専門教育科目	専門基盤科目	人間の理解	教育心理学	教育心理学の諸問題や基礎知識を理解し、多様な視点から論理的に思考する能力を養成することを目的としている。授業で取り上げる主な内容は、人間の発達、学習、適応と不適応、教授法、教育評価のほかに、子どもや生徒の理解とその指導法等である。授業の中で、小テストや小レポートを課すことがある。小テストでは基礎的な知識、小レポートでは論理的な思考を評価する。	
専門教育科目	専門基盤科目	人間の理解	障害者・障害児心理学	「多様性」「共生社会」が目指されている現在、障害のある人もない人も、共に自分らしく生きることが重視されている。この科目では、身体障害、精神障害、知的・発達の障害のある人に焦点を当て、障害に由来する特有の心理・行動を理解するとともに、その人本来の個性も理解すること、さらには多様な人が自分らしい姿・力を発揮できる社会の構築に必要なことを考察していく。	
専門教育科目	専門基盤科目	人間の理解	家族心理学	授業各回では、現代の家族の多様な形（少子化、ディンクス、晩婚化、同性カップル、生殖医療、パラサイトなど）があると同時に、人間が誕生し成長する場として家族のような密接な人間関係の場を必要としていることの理解を進める。また、構造理論の視点から、家族の病理の一つの解決の方法を示す。	
専門教育科目	専門基盤科目	人間の理解	福祉心理学	社会福祉の歴史と動向、理念、及び制度・法律について理解するとともに、福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解を深める。具体的には、児童福祉分野、家庭福祉分野、高齢者福祉分野、障害者福祉分野の活動について学ぶとともに、虐待や認知症の問題など、今日現場で問題となっている事柄についての基本的知識を身につける。	
専門教育科目	専門基盤科目	人間の理解	心理調査概論	本科目では調査法について講義を行う。心理学研究における調査法は、予め準備され統制された質問に対し多数の協力者（被検者群）から回答を集め、その結果を統計処理して被験者群の心理的状態や行動の状況について実態を解明したり、仮説の検証を試みる。結果から仮説探索を行うための多変量解析の技法や、仮説検証を行うための推測統計法についてもとりあげる。さらに、調査の実施にあたり倫理的配慮や実施の具体的方法についても触れる。	
専門教育科目	専門基盤科目	人間の理解	現代社会心理	人間の社会的行動に深い洞察力を持ち、それに基づいて人間関係構築・調整を構想、具体化し、実践することの基礎を築くべく、現代の社会心理学のいくつかのテーマやトピックスについて概論的に取り上げる。最初に社会心理学の歴史、課題、方法についてふれてから、代表的な研究トピックスを解説する。	
専門教育科目	専門基盤科目	人間の理解	多文化理解	2001年、文化の多様性を擁護する宣言がユネスコで採択されたが、その背景には、どんな問題があったのか。この授業では、文化の表現手段である言語の現状について知るほか、異なる食文化や働き方、価値観などを知ることを通して異なる文化への理解を深め、多文化社会の課題について考えていく。	
専門教育科目	専門基盤科目	人間の理解	社会福祉調査の基礎	本講義では、社会福祉調査の意義と目的について理解するとともに、倫理や個人情報保護について理解する。また、量的調査・質的調査の方法及び結果を適切に把握し、ソーシャルワークにおける評価の意義と方法を理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①社会福祉調査の意義と目的、②量的調査、質的調査の方法と結果、③ソーシャルワークにおける評価の意義と方法。	
専門教育科目	専門基盤科目	人間の理解	障がい者福祉論	本講義では、障がいの概念と特性を踏まえ、障がい者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解するとともに、障がい者福祉の歴史と制度、法制度と支援の仕組みについて理解する。また、障がい者に対する社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①障がいの概念と特性、②障がい者とその家族の生活と社会環境、③障がい者福祉の歴史と制度、法制度の仕組み。	

専門教育科目	専門基盤科目	人間の理解	児童福祉論	本講義では、児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭の生活とそれを取り巻く社会環境について理解するとともに、児童福祉の歴史や制度の発展過程及び法制度を理解する。また、児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①児童及び家庭の生活とそれを取り巻く社会環境、②児童福祉の歴史や制度の発展過程と法制度、③児童や家庭福祉領域における社会福祉士の役割。	
専門教育科目	専門基盤科目	人間の理解	高齢者福祉論	本講義では、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢を理解するとともに、高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。また、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、②高齢者に対する法制度と支援の仕組み、③高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方。	
専門教育科目	専門基盤科目	人間の理解	医学概論	本講義では、ライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解するとともに、健康・疾病の捉え方と疾病・障がいへの成り立ち及び回復過程について理解する。また、疾病予防と健康の増進をはかるための公衆衛生について理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①ライフステージにおける心身の変化と健康課題、②健康・疾病の捉え方と疾病・障がいの成り立ち及び回復過程、③疾病予防と健康の増進をはかるための公衆衛生。	
専門教育科目	専門基盤科目	関係の調整・構築	関係構築の心理	(概要) 人間関係の構築や調整に対して、具体的に構想・具体化できるようになるための基盤として、現代社会に多くみられる葛藤を生まないための表層的な関係の持ち方ではなく、真に心のこもった人間関係を築くために提案されている、エンカウンターグループ等の方法を取り上げ、これを実際に試演する。これらの体験の中で人間関係や個人内に生じる葛藤も、学習の素材として授業内で積極的に取り上げ、検討していく。 (オムニバス方式/全15回) (1 花屋道子/6回) 心理学の観点から、人間関係が構築されるメカニズムや初対面、第一印象の重要性を理解する。また、関係構築の技術やグループエンカウンター、自己呈示などをグループワークを交え学ぶ。 (11 永盛善博/7回) 関係構築の状況について、1対1、1対複数、複数対複数での関係構築の特徴を理解する。また、乳幼児期、児童期における関係構築の特徴を学ぶ。 (51 沼山博/6回) 青年期や成人期、中年期、高齢期における関係構築の特徴を理解する。また、関係構築の障害の特徴について理解する。	オムニバス方式
専門教育科目	専門基盤科目	関係の構築・調整	産業・組織心理学	産業心理学・組織心理学の目的、成立の経緯・歴史、その社会的意義について概観するとともに、職場における問題とこれまで行われてきた取り組みについて学ぶ。さらにこれらの問題に対して必要な心理に関するアセスメント方法ならびに支援方法について学ぶ。また、組織における人間の行動について取り上げ、グループ・ダイナミックス(集団力動)、リーダーシップ、適性と能力、ワークモチベーションといったトピックについて理解を深める。	
専門教育科目	専門基盤科目	関係の構築・調整	社会・集団心理学	対人関係や集団内での人間の意識と行動に関する心的過程について論じるほか、人間の態度の機能と構造及び説得等の働きかけによる態度及び行動の変容について取り上げる。「現代社会心理」での概論的学びを基盤として、社会的動物としての人間の社会的行動の原理についての理解を深めていく。	
専門教育科目	専門基盤科目	関係の構築・調整	メディアと人間関係	Webの普及により、情報が氾濫する時代となった。このような状況での情報の受信においては、目の前の情報を鵜呑みにするのではなく、情報は事実なのかどうか、発信者はどのような意図で情報を発信しているのかといった点への注意が求められる。この注意に欠けると、フェイクニュースに振り回されるなど、発信者の都合のよいように振舞う受信者となる。このような、発信者に支配される受信者とならないよう、この授業では、発信者の思惑や目的なども意識できる情報読解力、すなわちメディアリテラシーを養うことを目的とする。	

専門教育科目	専門基盤科目	関係の構築・調整	文字表現論	文字を書くという行為は人類の知的営為の一つである。それは情報の記録と伝達を目的とした行為であるだけでは決してない。多様な書体・形式・媒体を用いて文字に自己意思を託して発信する側は何を企図しているのか、受信する側は、それをいかに眺め・読み・感じるのか。日本もその中にある漢字文化圏の様相を中心としながら、その歴史や文化を理解し、ときに他の文字文化地域とも比較検討しながら、文字によって表現することの意味を考える。	
専門教育科目	専門基盤科目	関係の構築・調整	対話表現論	本講義では、特に対人、小集団、異文化コミュニケーションの理論を踏まえながら、自らのコミュニケーションの気づきやコミュニケーション能力向上のためのヒントを、いくつかの事例や理論、トレーニングを織り交ぜながら紹介していく。具体的には、理論と実践、事例という3つの側面を構えている。	
専門教育科目	専門基盤科目	協働力	地域と多文化	地域において異なる文化的背景を持つ人たちが多くくらす現状に対応するため、共にくらししていく時に起こりやすい問題や心の揺れを知り、どのようなかわり方が望ましいのかを異文化コミュニケーションの視点で考える。具体的には、講義やシミュレーション、DVD視聴、外国にルーツを持つ人へのインタビューを通じ自らの価値観や行動規範に気づき、地域にくらす人の状況や困難さの要因を分析し、共にくらすために必要な協働力を身につける。	
専門教育科目	専門基盤科目	協働力	地域共生論	かつて、地域に生きる人々の相互扶助（助け合い）は確かなものがあった。たとえば、農村社会には「結（ゆい）」というものがあって、田植え・稲刈りなどの農作業を多くの人々が手伝い、助け合うしくみがあった。近年、そのような共に生きる人間どうしの協働や共生の姿はなかなかみられなくなった。しかし、今や高齢者の介護、障害者への支援、外国人との交流などが必要とされ、多様な人々が共に地域で生きていくための人間関係の構築やしくみづくりが課題となっている。異なる組織や異文化グループ、異年齢層などが共生できる社会・地域をつくろうと力を合わせている事例や、暮らしやすいまちづくりや地域振興策に取り組んでいる事例などを学びつつ、乗り越えるべき課題やより良き共生社会に向けた実現方法等を考える。	
専門教育科目	専門基盤科目	協働力	異文化間コラボレーション	本授業では、「異文化」を広義にとらえ、社会生活における様々な場（家庭・職場・地域など）において、関係の構築や調整そして集団の「協働」（コラボレーション）が成立するために、いかなるフレームワークやコミュニケーションの手法が必要となるかを検証し、「異文化間」の調整を図る知恵を学び取る。具体的には、ビジネスやコミュニティにおいて活動をしているゲストスピーカーを招き、実地での経験や現場に不可欠な知識や考え方を学生自らが学びとり、考察を加えながら定着を図る。	共同
専門教育科目	専門基盤科目	協働力	保健医療と福祉	本講義では、ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解するとともに、保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。また、保健医療領域における社会福祉士の役割と適切な支援のあり方を理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①保健医療の動向、②保健医療に係る政策、制度、サービス、③保健医療領域における社会福祉士の役割。	
専門教育科目	専門基盤科目	協働力	社会福祉概論 I	本講義では、社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解し、日本の社会福祉の特性を理解する。また、社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論、②社会福祉の歴史、③社会問題と社会構造の関係の視点と現代の社会問題。	共同
専門教育科目	専門基盤科目	協働力	地域福祉論 I	本講義では、地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解するとともに、地域福祉における主体と対象を理解する。また、福祉行財政の実施体制、福祉計画の意義・目的及び展開を理解することをねらいとする。具体的には、次のことを学び、修得する。①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向、②地域福祉における主体と対象、③福祉行財政、④福祉計画の意義・目的及び展開。	

基礎教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域	くらしと地域	人間が生きていくうえで、住んでいる地域社会との関わりなしには生活を維持することはできない。たとえば、自分の身の回りにあるゴミや環境の問題、食と安全の不安、災害の危険、防犯対策など、地域に住む人々と力を合わせて対応しながら課題解決策を考えていく必要がある。また、祭りや民俗芸能、民俗行事・イベント等に参加して、協力し合って活力ある地域社会を創り上げていくを通して、共同体の一員であることの自覚を持つことが大切である。地域の担い手として各種の役割を分担しながら人々と共にやり遂げる喜びを味わうことは、みずからの人生を充実させつつ、地域愛・郷土愛を育むことにつながる。この授業は、以上のことについて具体的な地域の実践事例をとおして学び、課題解決策や地域の活力を生み出す方法などを考える。	
基礎教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域	地域政策論	地域政策の考え方、手法と課題について理解し、実践的に応用する能力を身につけることである。このために、先ず戦後日本の地域政策に関する基本的知識を学修し、近年における国土政策や地方創生政策の展開等を理解するとともに、空き家・空き店舗の利活用や土地利用の問題など、都市政策の領域におけるできるだけ身近な諸課題を取り上げ、また各都市における都市づくりなどの具体的事例に即して、都市における課題解決方法を考える力を身につける。	
専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域	談話コミュニケーション論Ⅰ	コミュニケーションにおける言語研究の中で談話分析を取り上げ、その理論や方法論の基礎を学ぶ。談話という統一的な文のまとまりに、どのような構造がみられるかを理解し、その応用方法について考察できるようにする。事前に配布する資料およびテキストを精読し、自分なりの理解を深めながら討議し、最後に与える主題についてレポートを出す。	
専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域	談話コミュニケーション論Ⅱ	談話研究についての理解を深める。最近の実証的談話分析研究の理解を踏まえつつ、実践例を参考にしながら、分析の手法を具体的に学び、データ収集から分析作業までを実際に試みる。日常の「ことば」を注意して観察・意識しながら会話のメカニズムを分析的に捉える視点が身につくようになる。事前に配布する資料およびテキストを精読し、自分なりの理解を深めながら討議し、最後に与える主題についてレポートを出す。	
専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域	日本語学Ⅰ	現在使われている日本語はがどのように生じたり変化したりしてきたかを知るため、古典語から現代語までの歴史を概観する。また、これからの文化の変化に伴い、日本語はどのように変化していくのかを見極めるため、日本語を中心とした言語学の知識を修得するとともに、言語の歴史や変化と生活文化が密接に関係し合っていることを学ぶ。	
専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域	日本語学Ⅱ	これまで、日本語については様々な研究がなされてきている。日本語学や社会言語学ではどのようなことが明らかにされてきたかを知った上で、研究成果（論文）を読み、主張の述べ方や論の組み立て方、必要項目などを把握することを目的とする。また、複数の研究成果を比較し、より正確で妥当な考え方について検討し、卒業研究につながる、言語の適切な調査法や整合性のある論の組み立て方を学ぶ。	
専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域	異文化論Ⅰ	「文化」とは何か、そして「異文化」とは何かを理解するため、基本的な文化論や社会理論を学びつつ、「他者」である異文化との対比の中でいかに自文化の独自性が形成されるかを概観する。特に、自己アイデンティティ形成のプロセスにおいて、ステレオタイプの思考や排除の理論がいかに影響するかを、具体例を交えながら考察する。さらに、身近に存在する「異文化」にも注目しながら、異文化間の折衝に必要な分析視点の獲得を試みる。	
専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域	異文化論Ⅱ	「異文化論Ⅰ」で学んだ文化論や異文化理解の基本理論をふまえ、「異文化」間で生じる摩擦や衝突の本質を理解し、異文化にまつわる課題や問題解決に必要な知識を修得する。特に、異文化間の折衝に不可欠なコミュニケーション・スタイルに注目し、その違いから生じる衝突やトラブルを回避するための方法論を概観する。加えて、国際的な問題から日常的な場面まで幅広く具体例を想定し、異文化理解に有効な思考力鍛錬のための方策についても考察する。	

専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域 対照言語コミュニケーション論Ⅰ	私たちが日ごろ慣れ親しみ、当たり前だと思っている表現をそのまま外国語にしただけ、同じ態度をとったりすると、真意が伝わらないばかりか、誤解を生じることさえある。文化の違いから来るコミュニケーションの行き違いには、どんなものがあるのか。例えば、冗談を言うという行動自体はどの言語文化にもあるが、どんな場面でどんな顔をして何と言うかは違い、場にそぐわなかったり、冗談だということが通じない場合もある。この授業では、同じ場面で文化によって言語行動がどのように違うかを対照する。	
専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域 対照言語コミュニケーション論Ⅱ	「対照言語コミュニケーション論Ⅰ」で学んだ、表現や言語行動の違いがどのような文化の違いによるものなのか、分析し、考察する演習を行う。また、発達障害をひとつの「異」ととらえ、「心の理論（他者の心を類推し理解する能力）」から、そのコミュニケーション上の問題がどのように説明されるかを知る。さらに、日本語の中にも文法や表現の違いがあり、ある方言と他の言語とにむしる共通性があるケースを観察し、考察を進める。	
専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域 談話言語演習	日本語とそれ以外の言語による会話において生じる様々な現象を比較対照することによって、異文化接触における問題について検討する。会話の教材や身の回りで起こっている言語・文化接触などから、分析のためのデータを用意し、そこに使われている言語・文化を比較対照して分析する。グループでデータを収集し、グループディスカッションを通して、分析を進める。グループ発表を行い、全体で議論を深める。	
専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域 談話コミュニケーション演習	本学の協定校で日本語を学ぶ学習者との双方向遠隔授業方式で日本の文化を発信する。日本の文化を外国へ伝えるための調べ学修が中心で、それを発信するための表現方法や関わり方について学ぶ。グループによるプロジェクトワーク形式で、発信する内容を取材し、分かりやすくまとめ、発信する。主に日本語で書かれたものや日常的にやりとりしている会話など、言語文化に関わる内容に焦点をあて、取材し、発信する。オンライン発信に加え、取り上げたテーマを分かりやすくまとめた教材作成も行う。	
専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域 地域言語演習	身近にあることばを調べるための調査方法の種類を学んだ上で、自分の仮説や主張に合った適切な調査方法を考え、主に文献等の既存資料、学内アンケート等を用いて、調査を実施する。研究方法を学び、テーマ決定から調査の実施、結果のまとめ方まで実践的に学ぶ。	
専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域 地域言語コミュニケーション演習	言語文化を目に見える形にする手法を通して、私たちの身の回りにあることばと文化のつながりを学ぶ。授業では、その具体例の一つとして、南山形地域のことばと文化を取り上げ、ことばの辞書的意味だけでは生きた形でことばをとらえたことにならないことを踏まえ、言語と文化のつながりを知り、それを客観的に見える形にする手法と知的楽しさの味わい方を培う。最終的には、調査結果を整理し発表すること、あるいはWEB版南山形ことば集の形にまとめることを目的とする。	
専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域 異文化演習	価値観や行動様式の異なる「異文化」同士の折衝の場を想定し、日常的な異文化トラブル解消のために必要な知識と行動スキルを体験的に学ぶ。他者理解のための理論や異文化間衝突の原理などの既修得事項を活用し、共存や協働を可能にする考え方や行動ができるようにすることを目指す。具体的には、国籍や性差、年齢差などで現実的に異文化折衝が必要な場面を設定し、グループワークによる検討や発表等を通じて多文化時代に必要な課題解決能力を磨く。	
専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域 異文化コミュニケーション演習	日常生活における低コンテキストな場面でのコミュニケーションを想定し、「常識」が通用しない場で直面する異文化摩擦や衝突のメカニズムの理解と、トラブルを回避可能な思考パターンや行動実行性の獲得を目指す。具体的には、ジェンダー、年齢、国籍などの多様な差異を含むコミュニケーション・スタイルの問題を取り上げ、「認識」「情動」「行動」の3つの側面に注目しながら、グループワークとディスカッションを通じて異文化コミュニケーターとして備えるべき能力の鍛錬を行う。	
専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域 言語理解演習	コミュニケーションの行き違いが起こった具体的な事例を取り上げ、「対照言語コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ」で得た知見を活かして、その原因を分析し、対策を考える。分析に当たっては、文献を検索して読み、引用して、それに対する自分の考えを整理する。グループ・ディスカッションの後、口頭で発表を行い、まとめとして各自が書く活動を行う。	

専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域	対照言語コミュニケーション演習	「対照言語コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ」及び「言語理解演習」などで学んだ、ある文化における言語行動の特性やコミュニケーション・スタイルの違いの理解を前提とし、異文化接触の場での課題解決など、学生それぞれが研究テーマを設定して分析・考察を進め、発表を行う。発表では、引用を適切に行い、文献情報を明記する手順を実践する。	
専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域	英語エクスペリメンタルスキル	日常的话题から特定のテーマに至るまで、相手に伝わる表現の仕方や的確な情報提示の方法を理論的に学び、より高度なプレゼンテーションやディスカッションを可能にする表現能力の基礎を作ることを目的とする。具体的には、英語特有の文章構成や説明手順の特色、コミュニケーションにおける特性などを理解したうえで、家庭や学校の身近な場や、表現力や交渉力がより必要とされる職場などでの議論などを想定し、ケース別に対応方法や具体的な表現方法を学修する。	
専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域	韓国語エクスペリメンタルスキル	日常的话题から特定のテーマに至るまで、相手に伝わる表現の仕方や的確な情報提示の方法を理論的に学び、より高度なプレゼンテーションやディスカッションを可能にする表現能力の基礎を作ることを目的とする。具体的には、韓国語特有の文章構成や説明手順の特色、コミュニケーションにおける特性などを理解したうえで、家庭や学校の身近な場や、表現力や交渉力がより必要とされる職場などでの議論などを想定し、ケース別に対応方法や具体的な表現方法を学修する。	
専門教育科目	専門発展科目	グローバルコミュニケーション領域	中国語エクスペリメンタルスキル	日常的话题から特定のテーマに至るまで、相手に伝わる表現の仕方や的確な情報提示の方法を理論的に学び、より高度なプレゼンテーションやディスカッションを可能にする表現能力の基礎を作ることを目的とする。具体的には、中国語特有の文章構成や説明手順の特色、コミュニケーションにおける特性などを理解したうえで、家庭や学校の身近な場や、表現力や交渉力がより必要とされる職場などでの議論などを想定し、ケース別に対応方法や具体的な表現方法を学修する。	
専門教育科目	専門発展科目	心理総合領域	臨床心理学	臨床心理学においては、心理的問題を一般的に解釈するのではなく、個人に即して理解する点が含まれるが、このような理解の仕方の基礎となる知識と態度とを身につけることを目標とする。臨床心理学の主要な理論を紹介するほか、一部描画や物語を創る体験を織り交ぜながら、個々人の内的なイメージの世界に気づき、クライアント個人の内界からの理解から心理療法がスタートし、様々な展開のあることを学ぶ。	
専門教育科目	専門発展科目	心理総合領域	心理学研究法	<p>(概要)</p> <p>授業では、研究とは何かについて考える。また、実験法、観察法などのさまざまな研究方法を学ぶ。さらに、実際の研究の進め方とまとめ方について学ぶ。</p> <p>研究方法を理解するために、実際の研究事例も参照しながら、授業を進める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 花屋道子/2回) 心理的特徴を把握するために用いられる基礎的な検査法や事例研究法について学び、その考え方を理解する。</p> <p>(2 大江篤志/2回) 心理的特徴を把握するために用いられる基礎的な調査法について学び、その考え方を理解する。</p> <p>(7 松田浩平/2回) 心理的特徴を把握するために用いられる基礎的な実験法について学び、その考え方を理解する。</p> <p>(11 永盛善博/2回) 心理的特徴を把握するために用いられる基礎的な観察法について学び、その考え方を理解する。</p> <p>(20 福田真一/6回)</p> <p>科学とは何か、研究仮説の立て方にと変数とは何かを学ぶ。</p> <p>また、研究計画の立て方、対象の選び方、研究で得られた結果を解釈する際の注意点について学ぶ。</p>	オムニバス方式

専門教育科目	専門発展科目	心理総合領域	心理学統計法	分散分析や因子分析等に代表される多変量解析を理解する事は重要である。そのような多くの変量を対象に行う様々な統計的手法をR言語を使用しながら学ぶ事がこの科目の目的である。前述の統計的手法を学ぶために、R言語を各受講者が各自のPCにインストールし、そのプログラムを使いこなしながら平均や分散といった基本的データ処理から徐々に、さらに高度な統計の概念の理解を深めていくことを目的として授業を進める。このため、各授業に宿題として与えられた課題（PCを用いたデータ解析と結果についてのレポート）とそのまとめとしての期末レポートをこなすことを必須とする。	
専門教育科目	専門発展科目	心理総合領域	心理測定法	心理測定とは、心理学の研究の中で最も基本となる「データをとること」である。狭義の心理測定は、数量化されたデータを作成することであり、心理現象に対する数値の付与である。心理学においては、他の科学における物理量とは異なり、人間の心理現象を対象とするがゆえに出来合いの測定用具が存在せず、そのために心理学者たちは独自の研究場面を設定し、測定方法や種々の測度を考案してきた。本科目ではそのような測度考案の道のりをたどりつつ、心理学研究の根本である心理測定について理解する。	
専門教育科目	専門発展科目	心理総合領域	人格心理学	従来さかんに議論されてきた、遺伝的要因対環境的要因の論争について紹介するとともに、主要な人格の理論である類型論、特性論、因子論について、これらの理論の発展の過程を含めて歴史的に概観する。また、人格の形成過程や、個人差、及びその変容について論じる中で、現在最も注目されている性格5因子論について、特に詳細に論じていく。	
専門教育科目	専門発展科目	心理総合領域	知覚心理学	心理学の重要な基礎分野のひとつである知覚心理学について学ぶ。知覚は、人が環境から何をどのように取り入れるのかという、心理学の出発点に位置づけられる分野である。生活空間や周囲の人々も環境の一部であるという考え方にに基づき、人間が自らを取り巻く環境に適應する上での基礎過程となる、人間の情報処理の特性について学ぶ。	
専門教育科目	専門発展科目	心理総合領域	学習心理学	この科目では、ヒトを含めた動物にとっての学習のメカニズムを行動心理学および認知心理学の立場から解明してきた心理学の歴史を主要な学習理論や重要な心理実験を紹介しながら辿る。心理学に用いられている学習に関する基本的用語の意味を正確に理解し、またそれらの用語を駆使して学習の様々な形成を説明できるようにすることをこの授業の目的とする。	
専門教育科目	専門発展科目	心理総合領域	神経心理学	たとえば言葉が話せない時、その原因として、喉や下、口などの構造的な障害、脳の障害など様々なものが考えられる。神経心理学では、特に脳に焦点を当て、脳の損傷が実際の行動や心理にどのような影響を及ぼすかを明らかにする。本科目では、さまざまな部位とその障害、そしてその結果として生じる種々の障害との関連に関する基本的事項を学ぶ。	隔年
専門教育科目	専門発展科目	心理総合領域	生理心理学	緊張したら汗をかくいたり、心臓の鼓動が早まったりと、生理的反応が見られる。生理心理学では、このような生理的指標の数値の変化を測定することを通して、心の状態やその変化を知ることを目指す。本科目では、これまでの研究史・概要を学ぶとともに、実際の人間関係において活用する理路・技術を探る。	隔年

専門教育科目	専門発展科目	心理総合領域	キャリア発達心理学	<p>(概要)</p> <p>現代の日本においては、これまでの終身雇用・年功序列という雇用形態が変化しつつあり、転職やキャリアアップに注目が集まっている。そのような中でも、勤める前のキャリアへの意識の芽生え、そして勤める始めてからの新任者、若手、中堅、ベテラン、管理職とさまざまなキャリア発達段階がある。授業では、これらの各段階において個人が経験する心理に関する理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 花屋道子/4回)</p> <p>青年期のアイデンティティ模索と職業選択の過程、及び、特に初期の職場適応をめぐる問題を取り上げる。また、早期離職をめぐる問題や職場適応の促進因と抑制因について理解する</p> <p>(7 松田浩平/5回)</p> <p>人間の動機づけなど働くことに関与する種々現象と理論、及び、キャリア概念についての理論の多様性について学ぶ。また、キャリアの定義およびキャリアを捉えるアプローチについて理解する。</p> <p>(11 永盛善博/4回)</p> <p>人生全体を展望する生涯発達心理学の視点について学ぶ。また、生涯発達心理学の理論的観点について学ぶ。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	専門発展科目	心理総合領域	健康・医療心理学	<p>ストレスと心身の疾病との関係、医療現場における心理社会的課題と必要とされる支援、保健活動の現場における心理社会的課題と必要とされる支援について学ぶ。また、近年急増する災害時に必要とされる支援についても言及する。</p>	
専門教育科目	専門発展科目	心理総合領域	発達心理学	<p>発達の仕組みや各発達段階の特長について、乳幼児期から青年期にかけて重点を置きながらも、生涯発達の視点に立って基礎的事項を学修する。この授業では、発達心理学の専門用語を具体的現象にあてはめながら理解でき、具体的現象を発達心理学の専門用語を用いて的確に解説できること、及び、複数の発達心理学的概念を関連付けて多様な視点から発達を捉え、人間の発達を総合的に考察できることを目標として学ぶ。</p>	
専門教育科目	専門発展科目	心理総合領域	教育相談	<p>講義を中心としながら、一部演習も織り交ぜ、演習部分において技法を学修する。担当者は小・中学校におけるスクールカウンセラー経験を有しており、これに基づいて教育現場の実情に触れながら、講義部分では、子どもの適応を支える方略、不適応や問題行動の理解の枠組み、カウンセリングの基礎知識を、演習部分では、カウンセリング実践のための基礎スキルについて、ワークシートを用いた学修など、技法の体験をそれぞれ学ぶ。</p>	
専門教育科目	専門発展科目	心理総合領域	対人関係論	<p>人間関係は、互いに知らない状態から、出会い、関係が構築され、維持、変容、そして時に破綻とさまざまな局面が存在する。本科目では、対人関係そのものに構築に焦点を当て、中立関係、友好関係、敵対関係など種々の対人関係の状態における当事者の心理を学ぶとともに、状態の変容のメカニズムや、実際的人际关系の振り返りなどをとおして、対人関係に対する理解を深める。</p>	隔年
専門教育科目	専門発展科目	心理総合領域	対人行動論	<p>対人行動の基礎として、対人関係の発生と発達、社会化と向社会性の発達、社会的動機を取り上げる。つぎに、対人行動の過程として、パーソナリティの認知などの対人認知と帰属過程、対人行動と自己との関連性について考察したのちに、対人行動の展開として、向社会的行動や、集団規範と同調・リーダーシップなど、集団の中における対人行動について理解を深める。</p>	隔年
専門教育科目	専門発展科目	心理総合領域	対人認知論	<p>人間の乳児は、生後まもなくの段階から人間に対して特異な反応を示すことが知られており、ここに社会的存在としての人間の端緒をみることも言われている。顔パターンに対する反応の人間の知覚能力における特異性をはじめとして、対人認知にかかわる認知心理学的トピックスや社会心理学的トピックスに至るまで、心理学の領域横断的に取り上げ、人間に対する理解を深める。</p>	隔年
専門教育科目	専門発展科目	福祉トマネジメント	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	<p>本講義は、社会福祉士の法的な位置づけについて理解する。また、ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程、価値規範と倫理について理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。</p> <p>①社会福祉士及び介護福祉士法、②ソーシャルワークの基盤と形成過程、③ソーシャルワークの倫理。</p>	

専門教育科目	専門発展科目	福祉マネジメント領域	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	本講義では、社会福祉士の職域と役割及びソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。また、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象を理解するとともに、総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①社会福祉士の職域、②ソーシャルワーク専門職の概念と範囲、③マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、④総合的かつ包括的な支援と多職種連携。	
専門教育科目	専門発展科目	福祉マネジメント領域	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	(概要) 本講義では、人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解するとともに、様々な実践モデルとアプローチについて理解する。また、ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術を修得する。具体的には、次のことを学び、修得する。①人と環境との交互作用に関する理論、②マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、③実践モデルとアプローチ、④ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術。 (オムニバス方式/全15回) (2) 下村美保/8回 人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解するとともに、様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 (12 南條正人/7回) ソーシャルワークの過程と記録の意義と目的、方法等を実際例を用いて学び、ソーシャルワークに係る知識と技術を修得する。	オムニバス方式
専門教育科目	専門発展科目	福祉マネジメント領域	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	(概要) 本講義では、ケアマネジメントとグループワーク、コミュニティワークの意義・原則・目的について理解する。また、スーパービジョンとコンサルテーションの意義と目的・方法について理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①ケアマネジメント、②グループワーク、③コミュニティワーク、④スーパービジョン、⑤コンサルテーション。 (オムニバス方式/全15回) (12 南條正人/7回) スーパービジョンとグループワークの原則、意義と目的・方法について理解する。 (16 高梨友也/8回) ケアマネジメントとコミュニティワーク、コンサルテーションの歴史や意義、原則、目的等について理解する。	オムニバス方式
専門教育科目	専門発展科目	福祉マネジメント領域	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	本講義では、社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。また、支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①ソーシャルワークにおける援助関係の形成、②ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発、③ネットワークの形成。	
専門教育科目	専門発展科目	福祉トマネジメント領域	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	本講義では、個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①ソーシャルワークに関連する方法、②カンファレンス、事例分析、③ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援。	
専門教育科目	専門発展科目	福祉トマネジメント領域	社会福祉概論Ⅱ	本講義では、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解するとともに、関連政策や包括的支援について理解する。また、福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①ニーズと福祉政策、②福祉サービスの供給と利用の過程。	
専門教育科目	専門発展科目	福祉トマネジメント領域	地域福祉論Ⅱ	本講義では、包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。また、地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士の役割を理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①地域社会における地域生活課題、②多職種及び多機関協働、③包括的支援体制。	

専門教育科目	専門発展科目	福祉マネジメント領域	刑事司法と福祉	本講義では、刑事司法の動向と制度の仕組みを理解するとともに、刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。また、刑事司法における社会福祉士の役割について理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①刑事司法の動向と制度の仕組み、②刑事司法の制度に関わる関係機関、③刑事司法における社会福祉士の役割。	
専門教育科目	専門発展科目	福祉マネジメント領域	社会福祉施設運営論	本講義では、福祉サービスを提供する組織や団体の概要、福祉サービスの組織の沿革、経営の視点と方法について理解する。また、福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論、福祉サービスに求められる福祉人材マネジメントについて理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①福祉サービスの組織、②福祉サービスの組織の経営、③福祉人材マネジメント。	
専門教育科目	専門発展科目	福祉マネジメント領域	社会保障論Ⅰ	本講義では、社会保障の概念や対象及びその理念と現代社会における社会保障制度の役割・意義・課題・財政について理解する。また、諸外国における社会保障制度の概要を理解することをねらいとする。具体的には、次のことを学び、修得する。①現代社会における社会保障制度の現状、②社会保障の概念や対象及びその理念、③社会保障と財政、④諸外国における社会保障制度の概要。	
専門教育科目	専門発展科目	福祉マネジメント領域	社会保障論Ⅱ	本講義では、公的保険制度と民間保険制度の関係を理解するとともに、社会保障制度の体系（医療保険・介護保険・年金保険・労災保険・生活保護・社会手当）を理解することをねらいとする。具体的には、次のことを学び、修得する。①社会保険と社会扶助の関係、②公的保険制度と民間保険制度の関係、③社会保障制度の体系。	
専門教育科目	専門発展科目	福祉マネジメント領域	公的扶助論	本講義では、貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会情勢について理解するとともに、貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。また、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、②貧困に係る法制度と支援の仕組み、③貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方。	
専門教育科目	専門発展科目	福祉マネジメント領域	権利擁護と成年後見制度	本講義では、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解し、権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。また、ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①権利擁護を支える憲法、民法、行政法、②権利擁護の意義と支える仕組み、③ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度。	
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	英語エクспレッション実践	英語を使って相手に伝わる表現の仕方や的確な情報提示をするために必要な理論、語彙力、そしてコミュニケーション上の姿勢をふまえ、グループワークや会議で実際に活用できる表現力、プレゼンテーション能力を実践的に鍛えることを目的とする。具体的には、英語による表現や意思疎通の特性などを理解したうえで、友人から会社の同僚に至るまで、さまざまなコミュニケーションの場面を設定し、実践的なシミュレーション練習を重ねることで表現能力の向上を図る。	
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	韓国語エクспレッション実践	韓国語を使って相手に伝わる表現の仕方や的確な情報提示をするために必要な理論、語彙力、そしてコミュニケーション上の姿勢をふまえ、グループワークや会議で実際に活用できる表現力、プレゼンテーション能力を実践的に鍛えることを目的とする。具体的には、韓国語による表現や意思疎通の特性などを理解したうえで、友人から会社の同僚に至るまで、さまざまなコミュニケーションの場面を設定し、実践的なシミュレーション練習を重ねることで表現能力の向上を図る。	
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	中国語エクспレッション実践	中国語を使って相手に伝わる表現の仕方や的確な情報提示をするために必要な理論、語彙力、そしてコミュニケーション上の姿勢をふまえ、グループワークや会議で実際に活用できる表現力、プレゼンテーション能力を実践的に鍛えることを目的とする。具体的には、英語による表現や意思疎通の特性などを理解したうえで、友人から会社の同僚に至るまで、さまざまなコミュニケーションの場面を設定し、実践的なシミュレーション練習を重ねることで表現能力の向上を図る。	

専門教育科目	専門発展科目	実践領域	国際コミュニケーション・スキル	日本語が少しわかる人と話すとき、どんなふうに言えば、わかりやすいのか。この授業では、まずシンプルな「やさしい日本語」で、日常会話から案内、災害時の情報提供、職場での会話まで行う方法を学ぶ。それから、英語や韓国語など学修している外国語で同じメッセージを伝えてみる。どちらも段階を追って、複雑な内容を加えていくことができるが、最初の一步は、最も大切な点が伝わり、文脈のつながりが理解されることである。その具体的な方法を工夫しながら身につける。	共同
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	マルチ言語プロジェクト	この授業では、「国際コミュニケーションスキル」で学んだ「やさしい日本語」を使って、協働の場面での会話を実際に工夫しながら行う。次に、英語や韓国語など学修している外国語で同じ場面を想定し、メッセージを伝えてみる。それに慣れたら、より複雑な内容を加えて、その具体的な方法を練習によって身につける。	共同
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	プロジェクトツアーA	これまでに学んできた関係構築力・調整力およびコミュニケーション能力を発揮し、海外の研修先におけるグループワークへの参加や現地企業訪問などを通じ、異文化の環境における協働作業に必要な視点や実際的なスキルを学ぶ。具体的には、事前の準備を経て現地研修プログラムに参加し、現地での活動成果を持ち帰り、報告会の形で発表を行う。	共同
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	プロジェクトツアーB	プロジェクトワークの趣旨を理解し、学力・人物ともに対応可能と判断された学生を対象に、海外での語学修得に加え、インターンを経験した学生をベースとした活動に加わるなどして協働作業の成果を形にするための実践研修科目である。具体的には、ビジネスに必要な語学力に加え、インターン活動を通じて協働作業に必要な思考法や実践的スキルを学ぶ。事前の準備を経て現地研修プロジェクトに参加し、関係構築力・調整力およびコミュニケーション能力を駆使しての活動成果を発表を通じて形にする。	共同
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	心理学基礎実験	<p>(概要)</p> <p>心理学基礎実験では、精神物理学的測定法を中心に心理学実験を実体験する。これらの実験結果を用いて図表による効果的な表示、統計的処理、報告書の作成について学修する。グラフの作成方法(方眼紙に手書きする)および実験レポートの書き方についても併せて指導を行う。これらの実体験を通じて、心理学における基本的な実験の手続きや手順ならびに心理学実験に臨む態度を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 花屋道子/2回)</p> <p>重さの弁別閾、重量弁別実験器を用いた恒常法による弁別閾の測定や恒常法による実験データの解析と弁別閾の算出方法について理解する。</p> <p>(7 松田浩平/2回)</p> <p>極限法による触2点閾の測定(極限法と実験室条件)を学ぶ。また、極限法による実験データの解析について理解する。</p> <p>(11 永盛善博/2回)</p> <p>鏡映描写像を用いた両側性転移学習実験(実験群と統制群)と大きさの恒常性観察距離と見えの大きさに対する恒常性係数の測定について理解する。</p> <p>(20 福田真一/9回)</p> <p>心理学研究で必要とされる、基礎的な実験機器の利用方法や実験法、データ統計的取り扱いや処理について理解する。</p>	オムニバス方式

専門教育科目	専門発展科目	実践領域	心理学実験 A	<p>(概要) 心理学研究で必要とされる、基礎的な実験法ならびにデータ処理・報告書の作成等について実習する。心理学実験演習Aでは、独立変数と従属変数の設定、精神物理学的測定法、要求水準、認知的葛藤などの実験を体験する。結果を図表による効果的な表示、統計的推定と検定、報告書の作成について学修する。グラフの作成方法および実験レポートの書き方についても併せて指導を行う。これらの実体験を通じて、心理学における実験的研究法の手続きや手順を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (1 花屋道子/4回) 欲求と自己認知の観点から人間の行動特性を、欲求水準と認知的葛藤の実験による実体験から学ぶ。 (7 松田浩平/5回) 実験レポートの書き方ならびに実験計画法の基礎を精神物理学的測定の実体験を通じて学ぶ。 (11 永盛善博/4回) 系列位置学習と一対比較法による好悪判断について実験指導を通じた実体験を通じて学ぶ。 (20 福田真一/2回) 対連合学習による概念形成の実験指導を通じた実体験から概念形成を学ぶ。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	心理学実験 B	<p>(概要) 心理学研究で必要とされる、基本的な実験法ならびにデータ処理・報告書の作成等について実習する。心理学実験演習Bでは心理学実験演習Aで学習した内容を基盤に、各テーマを通じて実験計画法、実験法・観察法・評定法などを用いたデータを収集、分散分析法をはじめとする統計的分析による実験仮説の検証、報告書作成について学習する。これらの実体験を通じて、心理学における実験的研究法にもとづく観察態度や心理学的思考を学ぶ。実験レポートの迅速な作成についても修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (1 花屋道子/4回) 語の記憶に意味や先行刺激の与える影響について実体験する。記憶成績からのアプローチと反応時間からのアプローチを学ぶ。 (7 松田浩平/5回) 2要因の実験計画法と各要因の主効果並びに交互作用を実体験を通じて理解する。意味微分法によるイメージの測定を実体験し報告書にまとめる。 (11 永盛善博/4回) プロジェクシオタキストスコープの取り扱いを学び、反応時間の測定と反応時間の取り扱いについて実体験を通じて学ぶ。 (20 福田真一/2回) アイマークレコーダーやプロジェクシオタキストスコープを用いて注意と反応の関係について実体験を通じて学ぶ。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	社会心理学調査実習	質問紙調査、及び面接調査等の質的データの収集について、そのすべての過程を実習形式で体験的に学ぶ。年度ごとに調査テーマを設定し、たとえば地域住民に対して種々の社会的事象に対する態度調査を行い、地域特性を把握することで見えてくる地域の課題を探ることを通じ、調査の方法と調査対象に対する理解を深める。	
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	心理検査法実習	<p>(概要) 各々の心理検査の使用目的を明確に理解するとともに、定められた課題や刺激の提示を誤りなく行うことの意義を理解した上で実施することができ、その検査法の目的に応じた臨床像を描けるようになることを目指す。この授業では、性格検査、発達検査、知能検査のいくつかについて、実習を通じてその使用目的や特性に対する体験的に理解することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (1 花屋道子/8回) エゴグラム、箱庭法、内田クレペリン精神作業検査等の考え方や施行方法について学ぶとともに、実習を通じてその使用目的や特性を理解する。 (11 三道なぎさ/8回) ウェクスラー式知能検査、津守式発達検査等の考え方や施行方法について学ぶとともに、実習を通じてその使用目的や特性を理解する。</p>	オムニバス方式

専門教育科目	専門発展科目	実践領域	心理的アセスメント	<p>(概要) 人間理解の手段として心理検査が用いられることがあるが、心理検査結果の誤用の危険性を排除し、適正に活用するためには、検査の成り立ちやその特性、及びその限界について十分理解しておくことが重要である。この授業では、このような心理検査について概論的に取り上げるとともに、心理検査以外の行動観察などを通じて人間を全人的に捉え、その臨床像を立体的に描く手法について、講義を中心に学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (1 花屋道子/12回) 心理検査の種類や使用方法、検査の進め方、性格検査法、精神的健康に関する検査法について学び、心理的アセスメントの実際について理解する。 (58 宮川系子/1回) 現場における心理アセスメントの実態について学び、その目的と倫理的配慮について理解する。 (59 高橋理美/1回) 現場における心理アセスメントの実態について学び、その観点と展開について理解する。 (60 曾川あゆみ/1回) 現場における心理アセスメントの実態について学び、その意義と限界について理解する。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	臨床心理学演習	<p>「臨床心理学」の講義による学びを前提とした授業内容を展開する。さまざまな心理療法やカウンセリングのあり方について、カウンセリングの基本となる傾聴技法をロールプレイを通じて理解を深め、実践的に学修する。さらに事例を取り上げて、心理学的な支援に関する具体的アプローチを演習形式で学ぶ。本科目については、2年次に開講される「臨床心理学」を履修した上で臨むこと。</p>	
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	心理演習	<p>心理学の所属ゼミ以外の学生間の研究交流、及び専門領域の異なる他ゼミ教員からも指導を受けることを可能とするために心理学ゼミ合同で授業を行う科目である。 受講者による①研究構想発表、②研究計画発表、③研究中間発表、④研究結果発表を中心としながら、文献検索の方法や各種リソースの利用方法、研究法の選択、研究倫理、データ分析、論文化の作法について、研究の構想から成果発表までの流れに沿って演習形式で学ぶ。</p>	共同
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	社会福祉士演習Ⅰ	<p>(概要) 本講義は、社会福祉士国家試験に関する重要事項・頻出事項を理解するため、単元ごとの繰り返し学習を行い、自己課題や到達目標に向けた姿勢を養う。具体的には、次のことを学び、修得する。①これまで修得した科目の内容を振り返る、②自己の不足している知識を整理する、③社会福祉士としての目的意識を高める。 (オムニバス方式/全15回) (16 高梨友也/7回) ソーシャルワークの基盤と専門職、理論と方法、高齢者福祉、社会保障について知識の整理を行うとともに、より深く理解する。 (30 下村美保/8回) 社会福祉の原理と政策、児童・家庭福祉、障がい福祉について知識の整理を行うとともに、より深く理解する。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	社会福祉士演習Ⅱ	<p>(概要) 本講義は、社会福祉士国家試験に関する重要事項・頻出事項を理解するため、単元ごとの繰り返し学習を行い、自己課題や到達目標に向けた姿勢を養う。また、社会福祉士国家試験の合格を目指す。具体的には、次のことを学び、修得する。①これまで修得した科目の内容を振り返る、②自己の不足している知識を整理する、③社会福祉士としての目的意識を高める。 (オムニバス方式/全15回) (16 高梨友也/7回) 社会学と社会システム、福祉サービスの組織と経営、貧困に対する支援、権利擁護と支える法制度、刑事司法と福祉について知識の整理を行うとともに、より深く理解する。 (30 下村美保/8回) 医学概論、社会福祉調査の基礎、保健医療と福祉について知識の整理を行うとともに、より深く理解する。</p>	オムニバス方式

専門教育科目	専門発展科目	実践領域	ソーシャルワーク演習Ⅰ	<p>(概要) 本講義では、ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解するとともに、ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。また、基本的な面接技術とソーシャルワークの記録の仕方を修得する。具体的には、次のことを学び、修得する。①自己覚知（自己理解と他者理解）、②基本的なコミュニケーション技術、③基本的な面接技術、④ソーシャルワークの記録。 (オムニバス方式/全15回) (6 橋本美香/8回) 自己覚知（自己理解と他者理解）などのソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解するとともに、ソーシャルワークの記録の仕方を修得する。 (12 南條正人/7回) ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養い、基本的なコミュニケーション技術と面接技術を修得する。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	ソーシャルワーク演習Ⅱ	<p>(概要) 本講義は、ソーシャルワークの知識と技術に係る科目との関連性を視野に入れつつ、幅広い分野の事例に触れ、ソーシャルワークの視点について理解するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系的立てていくことができる能力を修得する。具体的には、次のことを学び、修得する。①ソーシャルワークの価値規範、倫理的な判断能力、②ソーシャルワークの視点、③専門的援助技術の概念・理論、④総合的かつ包括的な支援。 (オムニバス方式/全15回) (6 橋本美香/7回) ソーシャルワークの知識と技術に係る科目との関連性を視野に入れつつ、ソーシャルワークの視点、総合的かつ包括的な支援（高齢者、障がい者、家庭内暴力等）について理解するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系的立てていくことができる能力を修得する。 (16 高梨友也/8回) ソーシャルワークの知識と技術に係る科目との関連性を視野に入れつつ、ソーシャルワークの視点、総合的かつ包括的な支援（社会的排除、児童虐待、低所得者、ホームレス等）について理解するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系的立てていくことができる能力を修得する。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	ソーシャルワーク演習Ⅲ	<p>(概要) 本講義では、ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に修得すること。また、支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①ソーシャルワークにおける面接技法、②具体的なソーシャルワーク場面及び過程。 (オムニバス方式/全15回) (12 南條正人/8回) ソーシャルワークにおける展開過程について理解する。また、面接における基本的応答技法を修得するほか、事例検討（社会的排除、高齢者、障がい者）におけるロールプレイを実施し、技術を修得する。 (56 坂上 洋/7回) ソーシャルワークにおける面接の意義や、援助者の基本的姿勢、面接の基本的原則について理解する。また、事例検討（児童虐待、低所得者、ホームレス、家庭内暴力）におけるロールプレイを実施し、技術を修得する。</p>	オムニバス方式

専門教育科目	専門発展科目	実践領域	ソーシャルワーク演習Ⅳ	<p>(概要) 本講義では、地域福祉を推進するためのコミュニティソーシャルワークと地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。また、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①コミュニティソーシャルワーク、②地域アセスメントや評価等の仕組み、③マイクロ・メゾ・マクロレベルにおける対象と展開過程、実践モデルとアプローチ。 (オムニバス方式/全15回) (6 橋本美香/8回) マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて各事例（災害時、在宅認知症高齢者、ひきこもり等）におけるロールプレイを実施しながら、実践的に理解し、技術を修得する。 (57 坂上 洋/7回) コミュニティソーシャルワークについて理解する。また、地域福祉の計画の意義、目的、地域福祉の計画や基盤整備の仕方、開発の仕方について理解する。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	ソーシャルワーク演習Ⅴ	<p>(概要) 本講義では、実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を行い、その意義や方法を具体的に理解するとともに、実践の質の向上を図るため、教員によるスーパービジョンについて体験的に理解する。具体的には、次のことを学び、修得する。①ソーシャルワーク実践の意義や方法、②スーパービジョン。 (オムニバス方式/全15回) (6 橋本美香/5回) ソーシャルワーク・スーパービジョンについて理解し、実習におけるソーシャルワーク実践の質の向上に資する能力を養う。また、事例検討（高齢者）におけるロールプレイを実施し、技術を修得する。 (12 南條正人/5回) ソーシャルワーク実習におけるインテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結の展開過程について理解する。また、事例検討（障がい者、在宅障がい者）におけるロールプレイを実施し、技術を修得する。 (16 高梨友也/5回) ソーシャルワーク実習におけるアウトリーチ、チームアプローチ、ネットワークングについて理解する。また、事例（社会的排除、低所得者、家庭内暴力）におけるロールプレイを実施し、技術を修得する。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	<p>(概要) 本講義では、ソーシャルワーク実習の意義について理解する。また、社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。具体的には、次のことを学び、修得する。①ソーシャルワーク実習の意義、②社会福祉士専門職としての姿勢。 (オムニバス方式/全15回) (6 橋本美香/4回) ソーシャルワーク実習の意義について理解する。また、社会福祉士として求められる役割を理解し、専門職としての姿勢を養う。また、実習の振り返りをおし、知識・技能の定着を図る。 (12 南條正人/4回) ソーシャルワーク実習の意義について理解する。また、社会福祉士として求められる役割を理解し、専門職としての姿勢を養う。また、実習の振り返りをおし、知識・技能の定着を図る。 (16 高梨友也/4回) ソーシャルワーク実習の意義について理解する。また、社会福祉士として求められる役割を理解し、専門職としての姿勢を養う。また、実習の振り返りをおし、知識・技能の定着を図る。 (2) 下村美保/4回) ソーシャルワーク実習の意義について理解する。また、社会福祉士として求められる役割を理解し、専門職としての姿勢を養う。また、実習の振り返りをおし、知識・技能の定着を図る。 (29 齋藤美穂/15回) ソーシャルワーク実習の意義について理解する。また、社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 また、実習の振り返りをおし、知識・技能の定着を図る。</p>	オムニバス方式

専門教育科目	専門発展科目	実践領域	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱ</p> <p>(概要) 本講義では、ソーシャルワーク実習の意義について理解する。また、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を修得する。具体的には、次のことを学び、修得する。①ソーシャルワーク実習の意義、②ソーシャルワークに係る知識と技術。 (オムニバス方式/全15回) (6 橋本美香/6回) 面接における基本的応答技法や、ソーシャルワーク記録の意義と方法について理解する。また、実習生、実習担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画を作成・指導を行う。 (12 南條正人/6回) ソーシャルワーク実習Ⅱの意義と目的や、ソーシャルワークにおける展開過程について理解する。また、実習生、実習担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画を作成・指導を行う。 (16 高梨友也/6回) ソーシャルワークにおける面接の意義、援助者の基本的施設、面接の基本的原則について理解するとともに、事例におけるロールプレイを実施し、技術修得する。また、実習生、実習担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画を作成・指導を行う。 (2 下村美保/3回) 実習生、実習担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画を作成・指導を行う。 (29 齋藤美穂/6回) 実習生としての接遇について理解する。また、実習生、実習担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画を作成・指導を行う。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲ</p> <p>(概要) 本講義では、ソーシャルワーク実習の事後指導の意義を理解する。また、ソーシャルワーク実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を修得する。具体的には、次のことを学び、修得する。①実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理、②実習総括レポート。 (オムニバス方式/全15回) (6 橋本美香/5回) ソーシャルワーク実習Ⅱにおける実習分野と施設・機関、地域社会、他の職種の専門性や業務を理解する。また、ソーシャルワークの価値規範と倫理に関する理解とする。 (12 南條正人/6回) ソーシャルワーク実習Ⅱの事後指導を行う。ソーシャルワーク実習Ⅱ後の自己評価や、実習先評価を確認し、実習を振り返るほか、実習総括レポートを作成・指導し、実習で得た具体的な体験や援助活動を、概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を修得する。 (16 高梨友也/5回) 専門的援助技術を修得し、ソーシャルワーク実習Ⅱにおけるソーシャルワークの知識と技術を理解する。具体的な体験や援助活動を、概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を修得する。 (2 下村美保/2回) 具体的な体験や援助活動を、概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を修得する。 (29 齋藤美穂/5回) ソーシャルワーク実習体験や実習記録を踏まえた課題を整理し、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を修得する。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	<p>ソーシャルワーク実習Ⅰ</p> <p>この科目は、厚生労働大臣が定める実習施設において、援助対象となる利用者の状況、想定される制度やサービス・資源の状況、地域の状況、施設・機関等組織の状況、専門職の役割を理解し、ソーシャルワークが職種として担っている業務全般を体験的に理解する。</p>	共同
専門教育科目	専門発展科目	実践領域	<p>ソーシャルワーク実習Ⅱ</p> <p>この科目は、厚生労働大臣が定める実習施設において、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術を用い、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践的能力を修得する。</p>	共同

卒業研究 科目		課題研究	4年次の「卒業研究」に繋がる研究テーマを設定するため、先行研究の水準を把握し、「卒業研究」で自らが取り組むべき研究テーマを発見することを目的とする。卒業研究の土台作りとして、資料収集をはじめ質的研究や調査研究、文献研究、実験研究などの手続きについて学ぶ。また、研究の背景や研究の方法の紹介を通じて、自分の考えている研究テーマを展開させるための基礎を学ぶ。	
卒業研究 科目		卒業研究	学科の学修の集大成として、卒業研究をまとめるための授業で、ゼミの指導方針にしたがって、学生が主体的に研究テーマを選び、段階的に研究を進めていく。各専門分野の研究の背景や研究方法を理解しながら自分の考えている研究テーマを展開させるための基礎を学んでいく。そのうえで、的確なテーマを確定し、論証のための資料や情報の収集と整理、分析、評価を行い、論文にまとめていく。	
自由科目	リメ デイ アル	社会科学基礎（言語・国語）	担当者の高校国語教諭並びに指導主事としての経験を生かし、国語の基礎力の評価と定着につながる学修支援を行う。国語の諸分野・領域のうち、特に「書くこと」「読むこと」「話すこと」に資する課題を重視する。取り組むべき課題について自覚をもちながら、積極的・継続的に学修が進められるよう、題材・テキスト、授業外の課題を工夫する。	
自由科目	リメ デイ アル	社会科学基礎（社会）	担当者の高校社会科教諭としての授業実践の経験を活かして、地理・歴史・公民などの社会科学の基礎学力を定着させるための学修支援を行う。毎回、アクティブラーニング(発表と討論)を取り入れ、主体的に学ぶ方法を身に付けるようにする。新聞を読む力を養い、公民としての判断力を鍛える。	
自由科目	リメ デイ アル	自然科学基礎（数学）	担当者の山形県教育センターにおける算数・数学の指導主事経験を活かしながら、高校から大学での学修へ円滑に移行できるよう、基礎学力の定着のための学修支援を行っていく。小学校から高校1年程度までの算数・数学を中心として、講義・演習を行う。それによって、既習事項の再確認を行い、今後の大学における学修のための基礎固めを行うとともに就職試験等に役立つように、その種の問題等も演習の中にも含ませて講義を行っていく。授業では演習問題の解答の発表や討論の場を設ける。	
自由科目	リメ デイ アル	自然科学基礎（理科）	担当者の高校教諭としての経験から、多くの学生が興味を示し不思議と思えるテーマに焦点を当て、日常的に体験する具体的な科学的現象を提示し解説していく。また、自然科学の基本的な原理を通して、それが社会とどう関わり進歩発展してきたかに気づかせ、自然科学の面白さや奥深さに触れ科学への興味関心を醸成させる。さらに、教諭時代にも取り上げて授業が深化した経験から、メディアに取り上げられる科学情報を正しく読み解く力を養うため、グループワークで学生相互の発表や意見交換をおこなう。	
自由科目	リメ デイ アル	国際言語基礎（英語）	担当者の高校教諭としての指導経験を活かし、学生が英語を読む際に抱えると推測される様々な課題解決に結びつく授業実践に心がける。英語の四技能の中の「読む」力の育成・向上に重点を置いた直読直解指導をする。読解に不可欠な基礎的・基本的事項については、その復習及び定着を図る。学修に意欲的・積極的に臨む意欲につながるよう、授業内容・方法及び課題に工夫を加える。授業では可能な限り学生による発表、討論の場を設ける。	
自由科目	司書 資格 に係る 科目	図書館サービス概論	図書館サービスの意義・理念と構造を理解する。図書館での各種サービスの種類・意義・方法・留意点や利用者との交流における基礎知識を学ぶことにより、司書として図書館サービス業務に従事できる基本的な能力を修得する。また、今後の図書館サービスのあり方について自らの考えをもつことも目標とする。図書館サービスの意義・理念と構造の理解を図り、図書館サービスに関わる基本事項（資料提供サービス、情報提供サービス、図書館協力、利用者対象別サービス、著作権の基礎知識、利用者との交流等）について解説する。	

自由科目	司書資格に係る科目	情報サービス論	図書館における情報サービスの社会的意義とその実際を知る。情報サービスの基本となるレファレンスサービス・情報検索サービスの理論と方法、各種情報源の基礎知識を学び、情報サービス業務に携わるための基本能力を修得する。また、発信型情報サービス等の新しいサービス形態の在り方について理解する。現代社会における図書館での情報サービスの意義・役割を明らかにし、レファレンスサービス・情報検索サービス等のサービスの種類や方法、代表的な各種情報源（参考図書・データベース等）の特質・利用法を解説する。	
自由科目	司書資格に係る科目	児童サービス論	児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象とする図書館の児童サービスの基本について学ぶ。読書の意義・役割、児童資料の種類と特性、児童コレクションの形成、児童サービスの概要、方法・技術、年齢層別サービス、学校・家庭・地域との協力等について解説する。	
自由科目	司書資格に係る科目	情報サービス演習 A	情報サービスの実施に関わる全プロセスを対象とし、各業務に必要な知識・技術の基本について具体的に学ぶ。レファレンスサービスに必要な専門的技術のうち、参考図書の理解と利用法を中心とするマニュアル検索の基礎能力を培う。特にレファレンス業務におけるレファレンスインタビューと回答業務、参考図書を利用した調査活動を中心に演習を通して実践的能力を養成する。情報サービスに活用するレファレンスツールの作成技術の基本を修得する。また、発信型情報サービスに用いられる各資料（パスファインダー、文献リスト等）の作成演習も実施する。	
自由科目	司書資格に係る科目	情報サービス演習 B	授業内容は大きく情報検索と情報発信に分けられるが、主になるのは情報検索である。情報検索の方では、パスファインダーの作成を目標に、各種資料の検索方法を演習を通して学ぶ。情報発信では、Webサイトの作成・運用・管理の基礎を演習を通して学ぶ。	
自由科目	司書資格に係る科目	図書館情報資源概論	図書館情報資源について、図書館業務に必要な基本的知識を修得する。図書館情報資源の選択・収集・保管等、収集業務を中心とする図書館コレクションの形成に関わる知識や方法について理解する。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通等の図書館業務に必要な知識等の基本を解説する。図書館情報資源の選択・収集・評価・受入・管理等の図書館コレクションの形成の理論と方法について概説する。	
自由科目	司書資格に係る科目	情報資源組織論	印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について学修する。組織化の意義・理論、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析と分類法・索引法、メタデータ、書誌データの活用法等について概説し、主要規則について解説する。	
自由科目	司書資格に係る科目	情報資源組織演習 A	情報資源組織業務のうち、主に主題分析、分類作業、統制語彙の適用に関する実践的な能力の修得を目的とする。主題分析の手法を理解し、分類については『日本十進分類法（NDC）』、統制語彙については『基本件名標目表（BHS）』を用いた実際の分類及びび件名作業を中心に必要な知識・技法を修得する。	
自由科目	司書資格に係る科目	情報資源組織演習 B	情報資源組織業務のうち、主に書誌データの作成・管理・利用に関する実践的な能力の修得を目的とする。『日本目録規則（NCR）』による実際の書誌データ作成を中心に必要な知識・技法を修得する。書誌ユーティリティ等を用いた集中化・共同化による書誌データの作成やネットワーク情報資源のメタデータ作成の基本を理解する。	

自由科目	司書資格に係る科	図書館基礎特論	図書館の理念、社会的役割・機能、課題についての理解を深め、図書館の現状を踏まえながらそのあり方について考察する。授業では「図書館の自由」に関する代表的な事例を紹介・解説する。受講生は、次の時間までにワークシートに自分の意見・考えを記入し提出する。授業内で前後半各1回、提出されたワークシートをもとにディスカッションを行い、図書館のあり方について多面的に考察していく。	
自由科目	司書資格に係る科	図書館サービス特論	図書館サービスの計画や実施に関わる「著作権」や「著作権問題」について理解を深め、日常の業務上直面する著作権問題に対応できる能力の基礎をつくる。特に電子メディアと著作権の関係についての知識の修得に重点をおく。図書館における対人関係の基本的理解を目的とし、図書館での直接サービスの基盤となる「コミュニケーション能力」の基礎を修得する。	
自由科目	司書資格に係る科	図書館情報資源特論	ネットワーク情報資源を中心とした各分野の専門的研究情報及び二次情報源について理解し、その利用技術を修得する。また、ネットワーク情報資源を活用し、自館作成情報資源としての書誌作成の基本的技術の修得を目指す。 ネットワーク情報資源を中心とする二次情報源一般について体系的に把握することから始め、その利用技術を用いて、受講生各自のテーマ設定に基づく文献調査、書誌作成の方法を学び実践する。 (各自作成する書誌は、一定の作成期間をおいた後で提出してもらい、評価の対象とする)	
自由科目	司書資格に係る科	図書・図書館史	図書をはじめとする各種図書館情報資源の形態、生産、普及、流通等の歴史、並びに図書館の歴史的発展について解説する。印刷・出版流通の変遷から、各種の図書館情報資源の形態・生産・普及・流通の変遷をたどり、さらに西洋の図書館史と日本の図書館史について解説していく。	
自由科目	準デジタル・アーキビスト資格科目	デジタル・アーキビスト概論	これからの社会に求められる「デジタル・アーキビスト」がどのような職種であり、その役割を遂行するためにどのような技能や知識を必要とするのかを理解する為、上級デジタルアーキビストとしてのデジタルアーカイブの経験を活かし、事例を紹介しながら、デジタル化社会に向けたデジタル・アーキビストのとしての基礎を学ぶ。	
自由科目	準デジタル・アーキビスト資格科目	地域文化とデジタル・アーカイブ	地域の残る伝統文化を後世に伝承していく手法として「デジタル・アーカイブ」の役割を理解し、デジタル・アーカイブを活用した新たな文化創造、地域におけるアーカイブ活動について学ぶ。上級デジタルアーキビストとしてのデジタルアーカイブの経験を活かし、事例を紹介しながら、地域の課題解決にデジタル・アーカイブがどのように役立つかを考え、デジタル・アーカイブの実践を行う。	
自由科目	キャリア支援	TOEIC対策	基本的文法事項を再確認しつつ、TOEIC形式（リスニング・リーディング編）の設問により英語らしい表現や実用的な表現を修得し、応用性の高い英語力の強化を目指す。具体的には、文法事項の確認よりも各課に登場する「使える表現」の定着を重視し、既修内容を反復練習するなどしてポキャブラリーの増強を図る。さらに、スピーキング・ライティングに不可欠な語彙力についても強化を図る。	
自由科目	キャリア支援	韓国語検定対策	基本的文法事項を再確認しながら、検定に出題される設問に正確に解答するために必要な語彙や文法力をつけることを目指す。具体的には、検定特有の問題形式に対しての適切な受験対策準備をすとも、テキストに登場する「使える表現」の定着を目指し、既修内容を反復練習するなどしてポキャブラリーの増強を図る。なお、実践領域に配されている海外研修科目参加のための準備科目の一つに相当する。	
自由科目	キャリア支援	中国語検定対策	基本的文法事項を再確認しながら、検定に出題される設問に正確に解答するために必要な語彙や文法力をつけることを目指す。具体的には、検定特有の問題形式に対しての適切な受験対策準備をすとも、テキストに登場する「使える表現」の定着を目指し、既修内容を反復練習するなどしてポキャブラリーの増強を図る。なお、実践領域に配されている海外研修科目参加のための準備科目の一つに相当する。	

学校法人富澤学園 学科設置に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
東北文教大学 人間科学部 子ども教育学科	90	3年次 5	370		東北文教大学 人間科学部 子ども教育学科	70	5	290	定員変更(△20)
					東北文教大学 人間科学部 人間関係学科	60	5	250	学科設置(認可申請)
計	90	3年次 5	370		計	130	3年次 10	540	
東北文教大学 短期大学部 総合文化学科	60	-	120	→	東北文教大学 短期大学部 総合文化学科	0	-	0	令和3年4月学生募集停止
子ども学科	100	-	200		子ども学科	100	-	200	
人間福祉学科	60	-	120		現代福祉学科	60	-	120	名称変更
計	220		440		計	160		320	